DocAve® 6 SP8 CU2

ソフトウェア プラットフォーム

リリース ノート

リリース日: 2017 年 3 月 24 日

DocAve 6 SP8 CU2 アップデート詳細

DocAve インスタンスのアップデートについては、DocAve コントロール パネル ユーザー ガイド 内の **更新マネージャー** セクションを確認してください。

DocAve 6 SP8 CU2 へのアップデートに関連する詳細情報については、以下の表を参照してください。

直接アップデートに必要な最低バージョン	DocAve 6 SP7 *__注意__: DocAve 6 SP8 CU2 は Livelink 移行およびファイル システム高速移行機能の向上を目的とした修正パッチです。これらの機能を主として使用する場合は、DocAve 6 SP8 CU2 にアップグレードしてください。SharePoint 移行モジュール内で DocAve SP7 CU1 の高速移行機能を使用する場合は、DocAve 6 SP7 CU1 を引き続き使用してください。
対応する SharePoint バージョン	SharePoint Online、SharePoint Server 2010、SharePoint Server 2013、SharePoint Server 2016 に対応しています。SharePoint のバージョンに関する詳細は、DocAve 6 インストール ガイド を確認してください。
その他 AvePoint 製品との依存関係	対応プラットフォーム バージョン間の互換表については、AvePoint ナレッジベース内 Governance Automation, DocAve, SharePoint, and SnapManager for SharePoint Support Matrix (英語) を確認してください。
新規ライセンス要否	×
IIS リセット要否	○
マネージャー サーバーのリブート要否	×
エージェント サーバーのリブート要否	×
アップデート状況の確認方法	**コントロール パネル** > **更新マネージャー** > **履歴の表示** でアップデート状況を検証できます。**履歴の表示** ページで、新しくインストールした更新の **バージョン** 列を確認してください。

新機能と強化点

DocAve 6 SP8 CU2 ハイライト

SnapManager 8.2 for SharePoint の顧客を DocAve 6 SP8 CU2 に移行することが可能になりました。移行完了後、すべての構成データベース・データ・スナップショット・プラン等を再利用することが可能です。

*注意: SnapManager 7.x/8.x for SharePoint を DocAve 6 SP8 CU2 に移行する場合、まず SnapManager 7.x/8.x for SharePoint を SnapManager 8.2 for SharePoint に更新する必要があります。

NetApp システム用プラットフォーム バックアップ & リストア

- SnapManager for SharePoint 環境を DocAve 6 SP8 CU2 にアップデートすることが可能になりました。アップデートの完了後、**プラットフォーム バックアップ & 最小単位リストア** は **NetApp システム用プラットフォーム バックアップ & リストア** にマッピングされます。
- SnapManager 8.2 for SharePoint の DocAve 6 SP8 CU2 への更新後、**NetApp システム用プラットフォーム バックアップ & リストア** エージェント タイプが移行済みエージェントに追加されます。

バグ修正

LiveLink 移行 / ファイル システム移行

- DocAve 6 SP8 CU2 で、DocAve コマンドレットおよび API 経由で **ファイル システム高速移行** 機能および **Livelink 高速移行** 機能を使用することが可能になりました。

NetApp システム用プラットフォーム バックアップ & リストア

- **NetApp システム用プラットフォーム バックアップ & リストア** を使用する場合、すべてのエージェントのエージェント タイプを構成する際に **プラットフォーム バックアップ & リストア** を選択しなくても、NetApp システム用プラットフォーム バックアップ プラン内のファーム ツリー上のデータベースがバックアップに含まれるようになりました。これまでは、**プラットフォーム バックアップ & リストア** エージェント タイプを選択しない場合、NetApp システム用プラットフォーム バックアップ プラン内のファーム ツリー上のデータベースは **エージェントがインストールされていません** 状態となり、バックアップは不可となっていました。

既知の問題

管理

管理センター

- 以下のアクションを実行する場合、
  1. Web アプリケーションを 1 件選択して 2 件のコンテンツ データベースを作成します。
  2. SharePoint 2013 管理シェル経由で **SharePoint_Shell_Access** データベース ロール付きのエージェント アカウントを割り当てます。
  3. この Web アプリケーション内のサイト コレクションを選択し、リボン上で **[移動]** をクリックして、選択したサイト コレクションを、所属するコンテンツ データベースから別のコンテンツ データベースに移動します。

  このサイト コレクションを新しいコンテンツ データベースに移動することはできません。

  原因: **SharePoint_Shell_Access** データベース ロール付きのエージェント アカウントは、この機能を使用する十分な権限を持っていません。

  対処法: **db_owner** データベース ロール付きのエージェント アカウントを割り当てます。

- 以下のアクションを実行する場合、
  1. SharePoint 2013 管理シェル経由で SharePoint_Shell_Access データベース ロール付きのエージェント アカウントを割り当てます。
  2. 孤立したサイトが存在する Web アプリケーションを選択し、**[孤立したサイトの削除]** をクリックします。
  3. **ただちに孤立したサイトをスキャンする** をスキャン モードとして選択し、孤立したサイトのスキャンを開始します。
  4. 孤立したサイトを選択し、他の設定を構成し、**[完了して実行]** をクリックして孤立したサイトを削除します。
  5. ジョブ モニターで、ジョブの詳細で孤立したサイトが正常に削除されたことが確認できます。
  6. 手順 **2** および手順 **3** を繰り返して別のスキャンを実行しても、孤立したサイトが残っています。

原因: **SharePoint_Shell_Access** データベース ロール付きのエージェント アカウントは、この機能を使用する十分な権限を持っていません。

対処法: **db_owner** データベース ロール付きのエージェント アカウントを割り当てます。

- 以下のアクションを実行する場合、

  1. SharePoint Online サイト コレクションを登録済み SharePoint サイト グループに追加します。
  2. 登録済み SharePoint Online サイト コレクションを、1 件以上のグループ メンバーが存在する Office 365 グループと共有します。
  3. **ユーザー / グループの制限** ルール付きの Policy Enforcer プロファイルを、この登録済み SharePoint Online サイト コレクションに適用します。
  4. **ルールの構成** 画面で、**指定したユーザー / グループの SharePoint サイトへの追加を制限する** オプションを選択し、ユーザー選択ウィンドウで Office 365 グループの表示名を入力します。**[名前の確認]** アイコンをクリックして、入力した名前を確認します。
  5. 適用したプロファイルのジョブを実行します。
  6. ジョブの完了後、登録済み SharePoint Online サイト コレクションを選択し、**[レポートの生成]** をクリックすると、ポリシー外の Office 365 グループがレポートに収集されていません。

  原因: この問題は SharePoint の Client API 制限により発生します。

  対処法: ユーザー選択ウィンドウで Office 365 グループのログイン名を入力し、**[名前の確認]** アイコンをクリックして入力した名前を確認するか、ユーザー選択ウィンドウで Office 365 グループの表示名を入力し、**[参照]** アイコンをクリックして、名前のリストを参照します。

- 以下のアクションを実行する場合、

  1. SharePoint の **[列を追加して、これらの各追加フィールドを表示]** セクションで、1 件以上のチェックボックスが選択された **参照** タイプの列を作成します。

  2. **サイト列タイプ展開** ルールまたは **リスト列タイプ展開** ルール付きの Policy Enforcer プロファイルを作成して、SharePoint ノードに適用します。

  3. このルールで、ルール設定を構成して **参照** タイプの列のリスト / ライブラリへの展開を制限し、**ポリシー外の列タイプを削除する** チェックボックスを選択してカスタム アクションを有効にします。

  4. 選択した SharePoint ノードで Policy Enforcer ジョブを実行します。

5. このジョブは、ポリシー外の列タイプの削除に失敗します。

原因: この問題は SharePoint Online API の制限に起因します。SharePoint で、追加フィールドが構成されている **参照** タイプの列の削除は制限されています。

コンテンツ マネージャー

- 以下のアクションを実行する場合、

  1. **新規を含む** 機能が有効であり、**すべて選択** 機能が無効である状態で移動元ツリーが読み込まれたページ内のアイテム レベル ノードを複数選択し、コンテンツ マネージャー ジョブを実行します。

  2. アンロードされたページ内の選択解除済みアイテムも移動先にコピー・移動されます。

  原因: **すべて選択** 機能で、DocAve コントロール サービスがすべての読み込まれたページおよびアンロードされたページ内のデータ情報を収集する必要があります。

  アイテム レベル ノードに対して、この機能が無効である場合、DocAve コントロール サービスは読み込まれたページ内の選択済みノードおよび選択解除済みノードのみを収集し、これらのデータ情報をエージェント サービスに送信することができます。そのため、エージェントはアンロードされたページ内で選択したアイテムが存在しない場合、情報を受信することができません。

  新規を含む 機能の現在のバックエンド ロジックは、コントロール サービスが選択したノード内のすべてのアンロードされたアイテムを収集するとなっているため、アンロードされたアイテムは新規オブジェクトとして扱われ、コンテンツ マネージャー ジョブに含まれます。

  対処法: ジョブの実行前に **新規を含む** を選択解除するか、ツリーを参照してすべてのアイテムを読み込みます。

- 通知を SharePoint Online サイトに繰り返してコピー・移動する場合、移動先で重複が発生します。

  原因: これは SharePoint Online API の制限に起因します。DocAve は移動先に通知が存在するかどうかを確認することができません。

- **SharePoint Server 発行インフラストラクチャ** 機能が有効である SharePoint Online サイト間のコンテンツ マネージャー ジョブで、移動元ノードがページ ライブラリである場合、移動元ページの **非表示** 状態を移動先に保持することができません。

  対処法: 同一のコンテンツ マネージャー ジョブで、トップ レベル サイトおよびページ ライブラリを両方選択します。

- **SharePoint Server 発行インフラストラクチャ** 機能が有効である SharePoint Online サイト間のコンテンツ マネージャー ジョブで、移動元ノードがページ ライブラリである場合、移動元ページの **非表示** 状態を移動先に保持することができません。
- SharePoint Online 間または SharePoint オンプレミスから SharePoint Online へのコンテンツ マネージャー ジョブの実行後、ファイル / アイテムの履歴バージョン内の参照列の値が移動先で見つかりません。
  原因: これは SharePoint API の制限に起因します。
- 移動元と移動先がいずれもオンプレミス版 SharePoint 2016 であり、メタデータ ファイルの生成機能が有効になっている状態でコンテンツ マネージャー インポート ジョブ (オフライン コンテンツ マネージャー ジョブ) を実行する場合、日付タイプに関連付けられている、複数の値のある参照列の移動またはコピーは失敗しますが、単一の値の参照列は正常に移動またはコピーできます。
- SharePoint Designer 2013 プラットフォーム ワークフローのワークフロー インスタンスのコピー・移動には対応していません。
- 移動元が、**DocAve コントロール パネル** > **登録済み SharePoint サイト** に登録されているオンプレミス版 SharePoint サイト コレクションの場合、コンテンツ マネージャー ドメイン マッピングは実行できません。
- 管理ナビゲーションで構成されたフレンドリー URL を移動先にコピーする場合、フレンドリー URL が正しく置き換えられず、リンクは移動先で使用できません。
- SharePoint 2013 環境でコンテンツ マネージャーを使用する場合、Active Directory フェデレーション サービス (ADFS) プロバイダーから Active Directory (AD) プロバイダーへのユーザー マッピングおよびドメイン マッピングは失敗することがあります。

  対処法: ADFS プロバイダーおよび AD プロバイダーにプレフィックスを追加します。例えば、ユーザー マッピングのプレフィックスを次のように構成します。移動元ユーザー名: i:05.t|adfs|contoso¥user1 移動先ユーザー名: i:0#.w|contoso¥user1
- 移動元と移動先がいずれも SharePoint Online 環境である場合、SharePoint Designer 2010 プラットフォームの再利用可能なワークフロー テンプレートは移動先にコピーできません。これは SharePoint の API 制限に起因します。
- **マージする** アクションを使用して **ブログ** テンプレートのサイト コレクションを SharePoint Online サイトにコピーまたは移動する場合、移動先では重複したサイド リンク バーとなります。
- トップ レベル サイトを移動先サブサイトに移動またはコピーする場合、サブサイトはサイト コレクションの権限を継承します。トップ レベル サイトに、全サイトに対する匿名アクセス設定が構成されている場合、匿名アクセス設定が移動先に移動 / コピーできません。これは、匿名アクセス設定を権限を継承し

ているサブサイトへのリストアを禁止する API 制限によるものです。

- SharePoint 2010 オンプレミス サイトの **個人用登録済みサイト** 配下から別の SharePoint 2010 オンプレミス サイトの **個人用登録済みサイト** 配下へのコンテンツ マネージャー ジョブの実行後、移動先コンテンツ タイプが移動元コンテンツ タイプと同じである場合、コンテンツ タイプ ワークフロー リストが移動先にコピー・移動されません。

  原因: この問題は Client API の制限に起因します。

  対処法: 解決方法は以下の 2 種類です。

  - コンテンツ マネージャー ジョブの実行後、手動で移動先リストにサイト コンテンツ タイプ ワークフローを追加します。
  - コンテンツ マネージャー ジョブの実行前、移動先から競合リストを削除します。移動元および移動先としてサイト レベル ノートを使用し、コンテンツ マネージャー ジョブを実行します。

- コンテンツ マネージャー プラン設定で Managed Metadata Service 設定が用語セットに設定されている場合、コンテンツ マネージャー ジョブの実行後、移動元用語を移動先にコピー・移動することはできません。

  原因: この問題はエンタープライズ キーワード列の制限に起因します。この列はすべての用語セット内の用語を使用し、使用された用語の所属する用語セットを記録しません。

  コンテンツ マネージャー ジョブの実行中は、DocAve は使用された用語の所属する用語セットを検知することができません。そのため、移動元用語および使用された用語の所属する用語セットは移動先にコピー・移動されません。

  対処法: コンテンツ マネージャー プランの構成時、Managed Metadata Service 設定を用語または Managed Metadata Service に設定します。

- 列マッピングは、変更されていない built-in SharePoint 列のマッピングには対応していません。現在の製品ロジックにより、DocAve で変更されていない built-in SharePoint 列のリストアには対応していません。

  対処法: Built-in SharePoint 列の値を変更し、列マッピングを使用して列をマッピングすることができます。

- 以下のアクションを実行する場合、
  1. Microsoft Office InfoPath を使用してサイト コンテンツ タイプ テンプレートを作成します。サブサイトで新規作成されたサイト コンテンツ タイプ テンプレートを使用します。

  2. 移動元として新規作成されたサイト コンテンツ タイプを含むサブサイトを選択し、移動先として別の

サイト コレクション配下で手動でサブサイトを入力し、コンテンツ マネージャー ジョブを実行します。

3. ジョブの完了後も、新規作成されたコンテンツ タイプ テンプレートを移動先で使用することはできません。

Microsoft Office InfoPath がテンプレートを発行後、XSN テンプレート ファイルが生成されます。このテンプレートをサイト コレクション レベルのノードに発行する場合、生成された XSN テンプレート ファイルをこのサイト コレクション配下のすべてのライブラリに保存することができます。

新規作成されたコンテンツ タイプ テンプレートを使用する際、テンプレート URL は XSN テンプレート ファイルにダイレクトされます。

このバグでは、テンプレートがルート サイトに発行され、テンプレート ファイルがルート サイト内のライブラリに発行されます。サブサイトでテンプレートを使用する際、テンプレート URL はルート サイト内の XSN テンプレート ファイルにダイレクトされます。このサブサイトを選択してコンテンツ マネージャー ジョブを実行し、別のサイト コレクション配下のサブサイトに SharePoint オブジェクトをコピー・移動する場合、テンプレート ファイルが移動先ルート サイトに損際しないため、移動先でこのコンテンツ タイプを使用することができません。

対処法: 移動元ノードとして移動元ルート サイトを選択するか、XSN テンプレート ファイル、接続されたリスト、移動元サブサイトを選択してコンテンツ マネージャー ジョブを実行します。

- コンテンツ マネージャー ジョブを実行してオンプレミスの SharePoint サイト コレクションから SharePoint Online サイト コレクションへ移行する場合、アンケート リスト内の 完了 列の値は移行元で **いいえ** に設定されていた場合でも移行先では **はい** に変更されます。(SharePoint 2010 で発生)
- コンテンツ マネージャー ジョブを実行して SharePoint オブジェクトを (ディスカッション リストを含めた) コミュニティ サイトから (ディスカッション リストを含めた) チーム サイトへコピーすると、コピー元のディスカッションはコピー先で使用できなくなります。また、リスト設定内の **[削除]** アクションがコピー先で非表示となり、サイト コミュニティ 機能もコピー先で使用不可となります。(SharePoint 2013 で発生)
- SharePoint Online の Wiki ページを SharePoint 2013 オンプレミス環境へコピーまたは移動することはできません。SharePoint 環境に保管されている直近バージョンの Office データを、古いバージョンの Office がインストールされている SharePoint 2013 オンプレミス環境へコピーおよび移動することはできません。

展開マネージャー

- 以下のアクションを実行する場合、
  1. SharePoint 2016 のデータ エクスポート ジョブを実行してから、SharePoint Online のデータ エクスポート ジョブを実行します。

2. 1 件目のジョブで使用されたエクスポート先似移動し、DesignManager2016 フォルダーを 2 件目のジョブで使用されたエクスポート先にコピーします。

3. 2 件目のエクスポート先および SharePoint Online ノードを選択してデータ インポート ジョブを実行します。

4.**展開元** 画面で DesignManager2016 フォルダーおよびフォルダー内のデータを読み込むことができません。

対処法: 手動で DesignManager2016 フォルダーを DesignManager2013 フォルダーにコピーします。

- コンテナ レベルの競合解決として **マージする** を選択し、コンテンツ レベルの競合解決として **上書きする** を選択し、展開元コンテンツ設定として **ユーザー コンテンツを含む** を選択した状態で、

  SharePoint 2013 **ブログ** テンプレートのサイト コレクションを Web アプリケーションに展開します。展開後、サイト コレクション ホーム ページの **アーカイブ** Web パーツに、展開先に展開されていない月が存在します。
  原因: **アーカイブ** Web パーツで表示された月は **投稿リスト** の作成日時に基づいていますが、SharePoint API 制限のため、**SharePoint_Shell_Access** データベース ロールを持つエージェント アカウントによって実行されたジョブはリストの作成日時を保持することができません。

- **SharePoint_Shell_Access** データベース ロールを持つエージェント アカウントを使用して展開マネージャー ジョブを実行し、SharePoint 2013 Managed Metadata Service 用語を展開します。ジョブの終了後にジョブをロールバックすると、ロールバック ジョブは失敗します。
  原因: **SharePoint_Shell_Access** データベース ロールを持つエージェント アカウントは、ジョブをロールバックする十分な権限を持っていません。

- 増分展開ジョブで、SharePoint 2016 MMS 用語グループの削除は展開できません。これは、SharePoint 2016 では用語グループの削除がログされないように制限されているためです。

- API 制限のため、SharePoint 2016 ドキュメント Web パーツ構成は正しく展開されません。

- SharePoint Online でリストの親ノードからの継承を停止し、外部ユーザーをリストに追加して、展開元に **アクセス権の要求** リストを選択し、展開先に SharePoint Online トップ レベル サイトを選択する場合、展開マネージャー ジョブを実行すると、**アクセス権の要求** リスト内のアイテムは展開先に正しく展開されません。この問題は SharePoint Online の制限に起因します。

- SharePoint 2016 サイト コレクションから SharePoint Online サイト コレクションに展開する場合、クライアント API 制限により、Web パーツの設定**クエリ文字列 (URL) フィルター**、**SharePoint リスト フィルター**、**ページ フィールド フィルター**、**フィルターの選択**、**HTML フォーム Web パーツ** が正しく展開できません。

- 発行機能が有効になっている状態で SharePoint 2016 サイト コレクションから SharePoint Online サイト コレクションに展開する場合、Web サービスによって Web レベルのビデオ コンテンツ タイプの XML ドキュメントが更新される際、リスト レベルのビデオ コンテンツ タイプのリソース ファイルが削除されます。この問題は、展開マネージャーが Web サービスを呼び出す時に、SharePoint の制限の原因で発生します。
- API 制限のため、未発行の Nintex ワークフローは展開先環境へ展開することができません。
- 2010 エクスペリエンス バージョンを選択して、ドキュメント センター テンプレート サイト コレクションを展開元として指定し、展開先のサイト コレクションを手動で入力して展開マネージャー ジョブを実行すると、[最高評価のドキュメント Web パーツ] に表示されているドキュメントは展開先へ正常に展開されません。
- DocAve SP1 と SP3 CU3 ではデータ構造が変わるため、SP1 から SP3 CU3 へのアップグレード実行後に SP1 の展開ジョブから開始したロールバック ジョブは失敗します。
- 展開元および展開先両方のコンテンツ タイプで名前が一致しているがタイプが一致しない場合、コンテンツ タイプは展開先で上書きされません。この場合、元の名前の末尾に数字を追加して新しくコンテンツ名が作成されます。(SharePoint 2010 で発生)
- Web フロント エンド レベルの展開プランを構成し、**[展開先環境をバックアップする]** オプションを選択、ジョブを実行後、DocAve を更新した場合、ジョブ モニター上で Web フロント エンド レベルの展開ジョブを選択して、リボン上の **[ロールバック]** をクリックすると、ロールバック ジョブが失敗したことを確認できます。DocAve の更新を行うと、このようなロールバックの操作は現在正常に起動しません。
- 展開元および展開先がいずれも SharePoint Online 環境の場合、コンテンツ オーガナイザー機能を有効化した展開元にファイルをアップロードしてもコンテンツ オーガナイザー機能は実行されません。

レプリケーター

- 以下のアクションを実行する場合、

  1. 2 件の Web アプリケーションが存在し、異なる User Profile Service アプリケーションに接続された状態で、各 Web アプリケーションで個人用サイトのホスト サイト コレクションを作成します。

  2. レプリケート元ユーザー プロファイルでカスタム プロパティを作成して別のセクションに移動します。

  3. レプリケーターでサイト コレクション レベルのプラン (ユーザー プロファイルを有効状態に設定) を保存します。

  4. レプリケート ジョブの完了後、レプリケート先ユーザー プロファイルを確認すると、カスタム プロパティの保存先がレプリケート元と一致しません。

原因: この問題は SharePoint API の制限に起因します。SharePoint API がユーザー プロファイル プロパティのセクションを保存する属性を提供しないため、DocAve はレプリケート中にセクションを保持することができません。

対処法: ユーザー プロファイル プロパティの保存先であるセクションを手動で変更します。

- 以下のアクションを実行する場合、

  1. DocAve コントロール サービスのインストール先であるサーバーで、インターネット プロトコル バージョン 6 (TCP/IPv6) が有効になっているものとします。
  2. DocAve エージェントをインストールする際、コントロール サービス ホスト フィールド内の DocAve コントロール サービス サーバーの IP アドレスを入力します。
  3. レプリケーターで、サイト コレクション レベルの単方向プランを保存します。レプリケート元サイト コレクションにファイルを複数アップロードし、完全レプリケート ジョブを実行します。
  4. プロセスが 1% となる時点でジョブが失敗します。

  対処法: DocAve エージェント サーバーで **DocAve 6 エージェント構成ツール** に移動します。コントロール サービス ホスト フィールドで IP アドレスを DocAve コントロール サービス サーバーのホスト名に変更します。

- 以下のアクションを実行する場合、

  1. 列マッピングを作成します。列タイプを **同じタイプ** に設定し、レプリケート先列を存在しない列に設定し、**内部列名を使用する** を選択します。
  2. レプリケート元に、列マッピングの条件を満たしたファイルが存在します。
  3. レプリケート ジョブを実行します。ジョブの完了後、レプリケート元の列はレプリケート先の列にマッピングされます。
  4. レプリケート元でファイルを編集してからレプリケート ジョブを再実行します。
  5. レプリケート ジョブの完了後、レプリケート先にはレプリケート元の列タイトルと同じ列が 2 件存在しますが、列の内部名が異なります。

  原因: **内部列名を使用する** が選択されているため、レプリケート ジョブの完了後、レプリケート先に内部列名が自動的に生成されますが、レプリケート先の内部列名は SharePoint でエスケープされます。2 件目のレプリケート ジョブ中、レプリケート先の内部列名がエスケープされたため、DocAve はレプリケート先で既存の内部列名を検出できません。そのため、レプリケート先に新しい列が作成されます。

  - **対処法 1**: 表示名を使用して列マッピングを構成します。**内部列名を使用する** チェックボック

スを選択解除します。

  - **対処法 2**: 列マッピングで、既存の正確な内部列名を入力します。
  - **対処法 3**: 2 件目のレプリケート ジョブの実行前、列マッピングを編集し、レプリケート先の列名をエスケープされた内部列名に変更します。

- **SharePoint 2013 の場合**: レプリケート元サイト コレクションのエクスペリエンス バージョンは 2010 です。レプリケート元サイト コレクションのエクスペリエンス バージョンは 2013 です。

  1. サイト コレクション レベルのマッピングを保存し、プランを保存して完全レプリケート ジョブを実行します。

  2. ジョブの完了後に、レプリケート元サイト コレクションに移動します。**サイトの設定** > **サイト コレクションの管理** > **サイト コレクションのアップグレード** の順に移動します。

  3. レプリケート元サイト コレクションのエクスペリエンス バージョンを 2013 にアップグレードします。

  4. レプリケート元サイト コレクションにビューを追加し、前に保存したプランを選択して増分レプリケート ジョブを実行します。

  5. ジョブの完了後、レプリケート元のビューがレプリケート先にレプリケートされていません。

  原因: マッピングはクロスバージョンと見なされます。ツリーを読み込む際にサイト コレクションのエクスペリエンス バージョンが収集されます。増分レプリケート ジョブは前に保存したプランに基づいて実行されます。

  レプリケート元サイト コレクションのエクスペリエンス バージョンを 2013 にアップグレードした後、レプリケート元ツリーは再度読み込まれません。そのため、DocAve は変更されたエクスペリエンス バージョン情報を収集することができず、マッピングがクロスバージョンとみなされます。

  対処法: プランを編集し、ツリーを再度読み込み、マッピングを作成します。

- 以下のアクションを実行する場合、

  1. サイト コレクション レベルのマッピングを作成し、マッピングをキューに追加します。

  2. **リアルタイム** を有効にすると、すべてのリアルタイム イベントが含まれます。

  3. プランを作成し、レプリケート ジョブを実行します。

  4. レプリケート元にグループを追加します。このグループはリアルタイム レプリケート ジョブ経由でレプリケート先に同期されます。

  5. レプリケート元でグループの説明を変更しても、変更されたグループの説明がレプリケート先に同期されません。グループの説明は非表示のリスト アイテム **ユーザー情報リスト アイテム** の影響を受けます。この非表示のリスト内のイベントはリアルタイム レプリケート ジョブでスキップされます。

対処法: スケジュール レプリケート ジョブを実行してグループの説明を同期します。

- SharePoint では、レプリケート元となるサイト コレクションに新しいグループを追加するとリアルタイム レプリケート ジョブを開始するイベントが発生し、データのレプリケート先にグループを同期します。

  SharePoint はグループ所有者をグループ ユーザーに自動的に追加します。この場合はイベントは発生せず、リアルタイム レプリケート ジョブは開始されません。また、グループの所有者はレプリケート先のグループ ユーザーにはレプリケートされません。グループの所有者は、次回以降のレプリケート処理が開始された際に正常にレプリケートします。

- レプリケート元およびレプリケート先でコンテンツ クエリ Web パーツを使用する場合、クエリされたリストもレプリケートする必要があります。この作業では Web パーツを含む SharePoint オブジェクトに加え、依存リストのレプリケートも必要となります。Web パーツが依存する関連リストはサイト内の複数個所に存在する場合があるため、レプリケーターではこれらのリストの自動レプリケートは実行しません。

- 管理されるメタデータの用語のレプリケートは、レプリケート元とレプリケート先の両環境で Managed Metadata Service が Web アプリケーション レベルで関連付けられ、かつ構成されている場合を除いて実行できません。

- プラン マネージャー インターフェイスを使用してプラン ジョブをインポートする際、Silverlight を使用したメモリー リークが発生する可能性があります。この問題を解決するためには、ブラウザを更新してキャッシュをクリアする必要があります。

- タイムライン構成の更新分は増分レプリケート ジョブに含まれません。増分レプリケート ジョブは SharePoint イベント キャッシュ テーブルからレコードを特定することができますが、タイムラインの更新分については SharePoint 内のイベント キャッシュ テーブルには記録されません。このため、タイムライン構成は増分レプリケート ジョブから除外されます。(SharePoint 2013 で発生)

- コンテンツ クエリ Web パーツのコンテンツは、レプリケート先で正しく表示されない場合があります。これはコンテンツ クエリ Web パーツの関連コンテンツがレプリケート先に存在しないので、レプリケート ジョブに含まれないためです。この問題の解決法として、コンテンツ クエリ Web パーツの関連コンテンツがレプリケート元の範囲に含まれているか、もしくはレプリケート先に存在するかを確認する必要があります。(SharePoint 2010 で発生)

- SharePoint 2010 環境内で関連用語をアイテム レベルでレプリケートする際の問題を回避するため、Managed Metadata Service がレプリケート元・レプリケート先の両環境内の Web アプリケーションに関連付けられていることを確認する必要があります。

- SharePoint 2013 の保留リストと電子情報開示の機能を使用して新たに作成されたファイル バージョンは、リアルタイム レプリケートによる複製の対象にはなりません。これは新規作成ファイルが旧バージョンの更新日時の情報を保持しているためです。この場合、ファイルはスケジュール設定されたレプリケ

ート ジョブが実行されるタイミングでレプリケートされます。

- SharePoint Online Client API では通知の複製に対応していないため、レプリケート元の通知はレプリケート先環境へ複製されません。
- レプリケート元のライブラリで **バージョン設定** を構成した場合、**送信されたアイテムに対してコンテンツの承認を必須にする** で **はい** を選択し、かつ **メジャーとマイナー (下書き) バージョンを作成する** を選択すると、マイナー バージョン ファイルの承認状態が **承認待ち** となります。このとき、レプリケート元のサイト コレクションを SharePoint Online サイト コレクションへ複製するジョブを実行すると、ジョブの完了後に **更新者** の値が正しくないものとなります。これは SharePoint Online クライアント API でマイナー バージョンの **更新者** の値の複製がサポートされていないために発生します。

コンプライアンス

リーガル ホールド

- DocAve エージェントを全体管理サーバーまたは 1 つの SharePoint Foundation 2013 SP1 ファームの Web フロントエンド サーバーにインストールし、DocAve マネージャーにログイン後、**コンプライアンス** > **リーガル ホールド** > **バージョン クロール** の順に移動した場合、リボン上で **[有効化]** をクリックしても Search Service アプリケーションは有効になりません。リボン上で **[コンテンツ ソースの構成]** を選択し、**[作成]** をクリックして新しいコンテンツ ソースを作成する場合、ファームはコンテンツ ソースの選択フィールドに読み込まれません。

Vault

- 選択した Web アプリケーションに対して Vault ジョブを繰り返し実行した際に、ジョブの実行者が選択した Web アプリケーションに対して **すべて読み取り権限** しか保持していない場合は、Vault ジョブは完全バックアップ ジョブとして実行されます。この問題は、Vault ジョブを実行したユーザーがジョブ内の選択した Web アプリケーションに対して十分な権限を保持していないため発生します。Vault ジョブを実行するユーザーが、選択したノードへのフル コントロール権限を保持していることを確認してください。
- SharePoint 2013 では、Vault に対応する API およびコマンドレットに対応していません。
- Vault ジョブの実行後にコントロール サービスが停止し、ジョブの完了後にコントロール サービスを再実行した場合、ジョブは失敗し、エクスポート済みオブジェクトはジョブ レポートに表示されません。しかし、ジョブ内の選択したノードの SharePoint コンテンツは正常にエクスポートされます。コントロール サービスではジョブ情報が受信されず、ジョブはタイムアウトしますが、DocAve エージェントは正常に起動し

選択したノードからコンテンツをエクスポートします。

コントロール パネル

- DocAve 6 SP 5 へのアップグレード後、SharePoint にインストールされている **ReportCenterSocialActivity.wsp** ソリューションが正常に更新されません。これは、DocAve 6 SP 5 では **ReportCenterSocialActivity.wsp** は **UsageActivityWebParts.wsp** に名称が変更されており、当該ソリューションの状態が **展開済み** ではなく **未展開** となっていることが原因で発生します。

  対処法: ソリューション マネージャーで旧バージョンの **UsageActivityWebParts.wsp** を削除してから、リボン上で **[展開]** をクリックして新しいバージョンの **UsageActivityWebParts.wsp** を展開します。

- Chrome を使用して **DocAve マネージャー** 画面を開く際、**ADFS 統合** を使用するユーザーはログインすることができません。

  原因: この問題は、ADFS サーバーで DocAve の **証明書利用者信頼** のエンドポイントを構成する際に、DocAve マネージャーが使用するホスト名の URL に起因します。使用されたホスト名は DocAve マネージャーの保存先であるサーバーのホスト名です。そのため、ADFS ユーザーを使用して DocAve マネージャーにログインする際、DocAve による Cookie の読み取り速度が不足している場合、ADFS ユーザー情報は Windows 認証情報に置き換えられます。

  対処法: ADFS サーバーで DocAve の **証明書利用者信頼** のエンドポイントを構成する際に、DocAve マネージャーの URL で FQDN (完全修飾ドメイン名) を使用します。

- .Net Framework 3.5 環境に DocAve エージェントをインストールした場合、その後同環境で .Net Framework 4.5 にアップグレードしても DocAve インターフェイスで SharePoint Online のサイトは表示されません。これは、.Net バージョンの情報がはじめに DocAve マネージャーでエージェントを登録する際に取得されるためです。3.5 から 4.5 へのアップグレード終了後、SharePoint Online に接続する前にエージェント サービスを再起動する必要があります。

- Administrators および Users グループで **Internet Explorer セキュリティ強化の構成** が有効化されていると、ジョブ モニターでジョブ レポートおよびライセンス レポートをダウンロードすることができません。

  対処法: サーバー マネージャーに移動し、セキュリティ情報セクション内の **[IE ESC の構成]** リンクをクリックします。**Internet Explorer セキュリティ強化の構成** インターフェイスが表示されます。Administrators セクションおよび Users セクションで **[オフ]** ラジオボタンを選択し、**[OK]** をクリックして変更を保存すると、レポートをダウンロードできるようになります。

データ保護

スタンバイ センター

- 以下のアクションを実行する場合、

  1. DocAve 6 SP4 のスタンバイ センター グループにストレージ マネージャー BLOB データが含まれており、デバイス マッピングが構成されているものとします。このグループを DocAve 6 SP4 で同期ジョブおよびフェールオーバー ジョブの実行に使用します。

  2. フェールオーバー ジョブの完了後、DocAve 6 SP4 を DocAve 6 SP5 にアップグレードします。

  3. DocAve 6 SP5 で、このグループを使用してフォールバック ジョブを実行すると、このフォールバック ジョブによって作成されたデバイス マッピングは動作しません。フォールバック ジョブの完了後、本番ファーム内の BLOB データではなく、スタンバイ ファーム内の BLOB データにアクセスが実行されます。

  対処法: ストレージ マネージャー BLOB データを含むグループがフェールオーバー ジョブを完了した場合、新しいバージョンの DocAve に更新する前にフォールバック ジョブを実行することを推奨します。

- 以下のアクションを実行する場合、

  1. **AlwaysOn 可用性グループ** 同期方法を使用して単一ファーム モード スタンバイ センター グループを作成し、このグループに SharePoint 構成データベース、管理データベース、コンテンツ データベースを追加します。

  2. このグループを使用して同期ジョブおよびフェールオーバー ジョブを順番に実行します。

  3. フェールオーバー ジョブの完了後、SharePoint 全体管理画面および SharePoint サイト コレクションにアクセスすることが可能になりますが、約 10 分後にアクセスできなくなります。
  原因: 単一ファーム モード スタンバイ センター グループの **AlwaysOn 可用性グループ** 同期方法では、フェールオーバー ジョブ後に SharePoint 構成データベースの保存先であるサーバーの名前が変更されます。

  SharePoint は Regidit 内の接続文字列を使用して SharePoint 構成データベースに接続しますが、Regidit 内の接続文字列は更新されていません。そのため、SharePoint はプライマリ レプリカで構成データベースを検索します。

  対処法: **AlwaysOn 可用性グループ** 同期方法を使用して単一ファーム モード スタンバイ センター グループを作成する場合、本番ファーム内のすべてのデータベースを同じ AlwaysOn 可用性グループに追加し、フェールオーバー ジョブの実行後にリスナー名を指す SQL Alias を作成する必要があります。

- 以下のアクションを実行する場合、

1. スタンバイ センター グループを作成し、本番物理デバイスをスタンバイ物理デバイスにマッピングするストレージ マネージャー BLOB データを含めます。

2. このグループを使用して同期ジョブを実行してから、フェールオーバー ジョブを実行してスタンバイ環境に切り替えます。

3. フェールオーバー ジョブの完了後、ファイルを SharePoint にアップロードして BLOB データを生成するストレージ マネージャー ルールをトリガーします。

4. 新規アップロードされたファイルの BLOB データがマッピングされたスタンバイ物理デバイスではなく、本番物理デバイスで生成されるエラーが発生します。

対処法: フェールオーバー ジョブの完了後にスタンバイ物理デバイスで BLOB データを生成するには、フェールオーバー ジョブの完了後に DocAve ストレージ マネージャーにログインし、BLOB データの保存にスタンバイ物理デバイスを使用するようにストレージ マネージャー ルールを変更します。

- 以下のアクションを実行する場合、
  1. SharePoint 2010 User Profile Service アプリケーションを含むスタンバイ センター グループで、**同期後に読み取り専用ビューを有効にする** オプションを選択します。
  2. AgentCommonHAConfiguration.xml 構成ファイル内の以下のノードを <ServiceConfig SupportWarmStandby="true"><AcrossConfig NeedCross="true" /> のように構成します。
  3. スタンバイ センター同期ジョブは、共有された SharePoint 2010 User Profile Service アプリケーションをスタンバイ ファームで読み取り専用として使用可能にすることができません。

  対処法: このグループを使用してスタンバイ センター同期ジョブを再実行します。2 件目の同期ジョブ後、共有された User Profile Service アプリケーションがスタンバイ ファームで読み取り専用として使用可能になります。

- 以下のアクションを実行する場合、
  1. スタンバイ ファーム モードおよび **AlwaysOn 可用性グループ** 同期方法を使用してスタンバイ センター グループを作成します。

  2. **同期後に読み取り専用ビューを有効にする** オプションを選択し、データベースをこの AlwaysOn 可用性グループに追加します。

  3. この AlwaysOn 可用性グループのセカンダリ レプリカは既定の SQL インスタンスでホストされていますが、既定のポート (1433) は使用していないものとします。

  4. スタンバイ センター グループを保存し、このグループを使用して同期ジョブを実行すると、ジョブは失

敗するか、完了 (実行中に例外あり) となります。データベースが AlwaysOn 可用性グループのセカンダリ レプリカに同期された後、DocAve は読み取り専用データベースのスタンバイ ファームへの添付に失敗します。

原因: SharePoint では、既定の SQL インスタンスであり、既定のポートを使用しない AlwaysOn 可用性グループのセカンダリ レプリカへのデータベースに添付に対応していません。

対処法:

1. SQL サーバー上で ...¥AvePoint¥DocAve6¥Agent¥data¥SQLServer ディレクトリに移動します。
2. InstanceMapping.xml ファイルを検索し、<Instance Name="" /> ノードにセカンダリ レプリカの既定の SQL インスタンス名を入力して、<ConnectionString Server="" /> ノードにセカンダリ レプリカの既定の SQL インスタンスのインスタンス名およびカスタム ポート番号を入力します。
3. 構成ファイルを保存します。
4. SharePoint サーバーで、カスタム ポート番号を使用して既定の SQL インスタンスのエイリアスを構成します。
5. エイリアス名は既定の SQL インスタンス名と同じであり、カスタム ポート番号を使用してセカンダリ レプリカの既定の SQL インスタンスにダイレクトする必要があります。
6. このグループを使用してスタンバイ センター同期ジョブを再実行すると、ジョブが完了します。同期後、スタンバイ データベースは移動先に添付され、スタンバイ環境の読み取りが可能になります。

- ログ シッピング方法でスタンバイ センター グループを作成してデータベースを追加し、移行先 SQL Server インスタンスに同じ名前のデータベース (移行元から同期されたデータベースではありません) が存在する場合、このグループを使用してフォールバック ジョブを実行すると、本番データベースは削除されまたは名前が変更され、移行先 SQL Server インスタンス内のデータベースが本番ファームに同期されます。

  これは、スタンバイ センターの誤った使用例です。フォールバック ジョブの実行前にプレスキャン ジョブまたは同期ジョブを実行すると、移行先 SQL Server インスタンスに、本番データベースと同じ名前のデータベースが使用されていることを報告するジョブ レポートが出力されます。

- 以下のアクションを実行する場合、

  1. SharePoint 2010 および SharePoint 2013 で、スタンバイ ファーム モードおよび **プラットフォーム バックアップ ログ シッピング** 同期方法を使用して Search Service Application を含むスタンバイ センターを作成します。

  2. スタンバイ センター グループを保存し、プラットフォーム バックアップ ジョブを実行して Search Service Application をバックアップします。

3. バックアップ ジョブの完了後、Search Service Application に新しいコンポーネントを追加してから、前に作成されたグループを使用してスタンバイ センター同期ジョブを実行します。

4. 同期ジョブの完了後、フェールオーバー ジョブを実行すると、フェールオーバー ジョブの完了後、スタンバイ Search Service Application を作成することができません。

原因: プラットフォーム バックアップ ジョブ後に Search Service Application のトポロジーを変更した場合、フェールオーバー ジョブで使用された現在のトポロジー情報はバックアップ データベースで記録されたトポロジー情報と異なります。そのため、現在のトポロジーおよびデータベースを使用してスタンバイ Search Service Application を作成することはできません。

- **SharePoint 2010 の場合:** プラットフォーム バックアップ ジョブ後に Search Service Application のトポロジーを変更した場合、同じバックアップ プランを使用してプラットフォーム バックアップ ジョブを再実行します。プラットフォーム バックアップ ジョブの完了後、スタンバイ センター同期ジョブを実行してからフェールオーバー ジョブを実行します。フェールオーバー ジョブは成功し、スタンバイ Search Service Application は作成されます。
- **SharePoint 2013 の場合:** バックアップ後に本番 Search Service Application のトポロジーを変更した場合、スタンバイ センター グループから Search Service Application ノードを削除し、SharePoint ファーム ツリーを更新し、Search Service Application をグループに再度追加してください。同期ジョブを実行してから、フェールオーバー ジョブを実行します。スタンバイ Search Service Application の作成には成功します。
- 以下のアクションを実行する場合、
  1. スタンバイ センター グループに追加する BLOB データ付きの本番 Web アプリケーションを選択します。
  2. **選択したコンポーネントの関連スタブ データベースを同期する** オプションおよび **同期後に読み取り専用ビューを有効にする** オプションを選択して、関連スタブ データベースをスタンバイ ファームに同期し、同期後にスタンバイ環境を読み取り可能にします。
  3. その後、このグループに基づいてスタンバイ センター同期ジョブを実行すると、スタンバイ SharePoint ファームに同期されたスタブ ファイルにアクセスできません。

  原因: 同期後にスタンバイ環境の読み取り専用ビューを可能にした同期ジョブの完了後にも、スタンバイ データベースはスタブ情報に本番スタブ データベースを示します。スタンバイ DocAve エージェントのエージェント アカウントは本番スタブ データベースへの十分な権限を持っていません。

  コンテンツ データベース、BLOB データ、関連スタブ データベースをスタンバイ ファームに同期しようとする場合、スタンバイ ファーム内のエージェント アカウントはスタンバイ スタブ ファイルが読み取り可能であることを確認するため、本番スタブ データベース内の db_owner データベース ロールを持つ必要があります。

- 以下のアクションを実行する場合、

  1. **SQL ミラーリング** 同期方法を使用してスタンバイ センター グループを作成します。

  2. 同期ジョブの実行後、本番 SQL サーバーにインストールされた DocAve エージェントが非アクティブになります。

  3. このグループに対してフェールオーバー ジョブを実行すると、ジョブは失敗します。

  原因: 本番環境およびスタンバイ環境の間の SQL サーバー サービスおよびミラーリング セッションが正常に動作する場合、スタンバイ センター フェールオーバー ジョブは本番 SQL サーバー上の DocAve エージェントによって実行されます。

  本番 SQL サーバー上の DocAve エージェント サービスが非アクティブ状態であるため、フェールオーバー ジョブは本番 SQL サーバー上の DocAve エージェントによって実行されることができず、フェールオーバー ジョブは失敗します。

  対処法 1: **コントロール パネル** > **エージェント モニター** の順に移動し、本番 SQL サーバーにインストールされた DocAve エージェント サービスをアクティブにします。

  対処法 2: SQL サーバー サービスを非アクティブにし、本番環境およびスタンバイ環境の間のミラーリング セッションを切断してから、フェールオーバー ジョブを実行します。

- 以下のアクションを実行する場合、

  1. スタンバイ ファーム モードおよび **SQL ミラーリング** 同期方法を使用し、**同期後に読み取り専用ビューを有効にする** オプションを選択したスタンバイ センター グループに基づいて同期ジョブを実行します。

  2. 同期ジョブの完了後、本番データベースにデータベース ファイルを追加してから、このグループに基づいて同期ジョブを再実行すると、2 件目の同期ジョブが失敗します。スタンバイ SQL インスタンスでデータベース スナップショットを作成することができず、スタンバイ環境が読み取り不可の状態になります。

  SQL サーバーでデータベースに新しいデータベース ファイルを追加してから、データベースをバックアップすると、スナップショットの作成操作も失敗します。

  対処法: スタンバイ環境からミラーリング データベースを手動で削除してから、同期ジョブを再実行します。

- ダッシュボードで複数のグループが選択されている場合、スタンバイ センターの同期・フェールオーバー ジョブが失敗することがあります。

- DocAve 6 SP3 を SP4 に更新する場合、AlwaysOn 可用性グループを同期方法として使用した SP3 から更新されたスタンバイ センター グループはプレスキャンおよび同期ジョブに失敗します。これは、SP4 スタンバイ センター AlwaysOn 可用性グループの同期方法が SP3 と異なるためです。

対処法: SP4 に更新した後、スタンバイ センター グループを編集し、列のヘッダーの **[削除]** をクリックしてグループ内のノードをすべて削除してから追加しなおします。グループを保存し、このグループを使用してスタンバイ センター ジョブを実行します。

- SQL インスタンス設定でマスター キーを構成した後に、SQL インスタンスのマスター キーを変更する場合、更新したマスター キーは SQL インスタンス設定インターフェイス上に表示されません。

最小単位バックアップ & リストア

- SharePoint 2010 ファームにインストールした DocAve 5 SP8 CU2 で、サイト コレクションを選択して完全バックアップジョブを実行し、バックアップ データを DocAve 6 SP7 にインポートして **別の場所へリストア** ジョブを実行する場合、データの選択 ツリーを展開して、ノードとしてこのサイト コレクションのみを選択すると、リストア先を選択する際にエラーが発生します。

  対処法: インポートされたデータをリストアする場合に、先にサイト コレクション配下のノードを選択してから、サイト コレクションを再度選択します。

- **全般設定** の **アップロードの最大サイズ** が 4 GB に設定されている Web アプリケーション配下のライブラリ (サイズが 3.56 GB であるファイルが含まれています) をバックアップすると、バックアップ ジョブが失敗します。

- アプリを含む OneDrive for Business を他の OneDrive for Business にリストアする場合、アプリのナビゲーションはリストアされますが、リストア先でアプリを開くとエラーが発生します。

- DocAve を DocAve 6 SP7 に更新する場合、DocAve 6 SP6 を使用してバックアップした SharePoint Online データに対して **別の場所へリスト** ジョブを実行すると、**リストア先** ツリーの **個人用登録済みサイト** ノード配下のノードが展開できません。これは、DocAve 6 SP6 では SharePoint Online データのバックアップに **SP2013GranularBackup.exe** が使用するのに対し、DocAve 6 SP7 ではバックアップ データ のリストアに **SP2016GranularRestore.exe** が使用されるため、データが **個人用登録済みサイト** にリストアできないことが原因で発生します。

- リストア元の **参照** 列に関連づけられた同じ名前のリストがリストア先にある場合、**別の場所へリストア** ジョブの完了後、**参照** 列の値がリストアされません。

  対処法: リストア先の **参照** 列に関連付けられたリストア元のリストに対してリストア ジョブを実行し、ジョブの完了後に **SP2013GranularBackupRestore.cfg** ファイルの **forceUseSourceLookupValue** プロパティを **true** に変更してから別のリストア ジョブを実行して **参照** 列をリストアすることができます。

- Office 365 の登録ユーザーによって開かれている、またはチェックアウトされているファイルのバージョンはバックアップできません (SharePoint 2010 で発生)。

- ドメイン マッピングを使用する際、ドメイン サフィックスが追加されている場合はドメイン マッピングが適用されません。例: ドメイン名.com (SharePoint 2013 で発生)
- 権限の継承を解除したサブサイトを含むサイト コレクションをリストアする場合、リストア後のサブサイトはサイト コレクションの権限を継承してしまいます。バックアップ ジョブ前に作成したアクセス許可レベルはすべてサイト コレクションのアクセス許可レベルに含まれます。(SharePoint 2013 で発生)

プラットフォーム バックアップ & リストア

以下のアクションを実行する場合、
1. VM のネットワーク アダプターで 1 件以上の IP アドレスが構成されている状態で、プラットフォーム バックアップ ジョブを実行して VM をバックアップします。

2. **ファームと VM のクローン** > **VM のクローン** の順に移動し、バックアップ データを使用してリストアを実行し、VM をリストア先にクローンします。

3. VM はリストア先にクローンされますが、構成されるのは 1 件の IP アドレスのみです。
原因: **ファームと VM のクローン** では、1 件のネットワーク アダプターに対する複数の IP アドレスの構成には対応していません。

対処法: VM クローンの完了後、手動で IP 設定を構成します。

- ファーム クローン ジョブはリストア先ファームで同期データベースを作成することができないため、リストア先の User Profile Service をバックアップするために実行したバックアップ ジョブは完了しますが、実行中に例外が発生します。

  対処法: ファーム クローン ジョブの完了後、**上書きする** を競合解決として **別の場所へリストア** ジョブを実行して User Profile Service アプリケーションをリストアすると、同期データベースはリストア先ファームで作成されます。

- 以下のアクションを実行する場合、
  1. SharePoint 2010 ファームで Search Service Application を 1 件以上作成します。

  2. プラットフォーム バックアップ ジョブを実行してファーム全体をバックアップしてから、バックアップ データを使用してファーム クローン ジョブを実行します。

  3. ファーム クローン ジョブは完了しますが、実行中に例外が発生します。また、リストア後、機能しない Search Service Application が発生します。

  対処法: ファーム クローン ジョブの完了後に Search Service Application を正常に使用することができない場合、**上書きする** を競合解決として **別の場所へリストア** ジョブを実行して指定の Search Service Application を再度リストアします。

- 以下のアクションを実行する場合、
  1. バックアップ元 SharePoint ファームで Secure Store Service アプリケーションを作成し、初めてこの Secure Store Service アプリケーションにアクセスする際に新しいキーを生成します。

  2. Secure Store Service アプリケーション画面で対象アプリケーションを作成します。

  3. このバックアップ元 SharePoint ファームをバックアップし、バックアップ データを使用してファーム クローン ジョブを実行します。

  4. ジョブの完了後、リストア先 Secure Store Service アプリケーションで **「マスター キーを取得できません。」**というエラー メッセージを受信する可能性があります。

  対処法: ファーム クローン ジョブの完了後、リストア先 Secure Store Service アプリケーションで **「マスター キーを取得できません。」**というエラー メッセージを受信した場合は、新しいキーを生成するか、キーを更新して Secure Store Service アプリケーション機能を使用します。

- 以下のアクションを実行する場合、
  1. プラットフォーム バックアップ プランの設定時に NewsGator ソリューションおよびサービス アプリケーションを選択してから、完全バックアップ ジョブを実行します。

  2. バックアップ ジョブの完了後、SharePoint サーバーの全体管理から newsGator.inovation.app.wsp ソリューションを削除します。

  3. SharePoint サーバーの全体管理から NewsGator Social Platform Services を削除します。

  4. **上書きする** を競合解決として **元の場所へリストア** ジョブを実行し、すべてのバックアップ コンポーネントをリストアすると、リストア ジョブがフリーズします。
  原因: NewsGator サービス アプリケーションが完全に削除されていないことに起因します。

  対処法: バックアップ ジョブの完了後、PowerShell を使用して NewsGator5.0 および関連する NewsGator 機能を手動で削除し、**上書きする** を競合解決として **元の場所へリストア** ジョブを実行します。

- 以下のアクションを実行する場合、
  1. プラットフォーム リストア ジョブを実行し、Search Service Application を、同じ名前の Search Service Application が存在するリストア先ファームに **別の場所へリストア** します。

  2. リストア ジョブの完了後、リストア元 Search Service Application データベースの保存先である SQL サーバーはリストア先ファームの **ファーム サーバー** 画面内に表示されます。

対処法: リストアの実行前にリストア先ファームから Search Service Application を削除するか、リストア後にリストア先ファームの **ファーム サーバー** 画面からリストア元ファームの SQL サーバーを削除することができます。

- プラットフォーム バックアップ ジョブを実行し、Web アプリケーション、コネクタ BLOB、スタブ データベースをバックアップすると、コネクタ BLOB のバックアップに失敗する可能性があります。この失敗のジョブレポートにアクセスすることはできません。

  対処法: このプランの物理デバイスが存在するサーバーで物理デバイスを作成し、新規作成された物理デバイスをこのバックアップ プランのストレージ ポリシーに適用します。プラットフォーム バックアップ ジョブを再実行すると、コネクタ BLOB がバックアップされます。

- 以下のアクションを実行する場合、
  1. スナップショットの生成を使用してプラットフォーム バックアップ ジョブを実行し、Search Service Application をバックアップします。

  2. Search Service Application のインデックス データを NetApp LUN に保存します。
  3. ハードウェア プロバイダーを使用してスナップショットを生成すると、Search Service Application のインデックス データのバックアップに失敗します。

  原因: Search Service Application のインデックス データを NetApp LUN に保存した場合、ハードウェア プロバイダーを使用してスナップショットを生成する際にエラーが発生します。スナップショット経由でデータの収集に失敗したため、Search Service Application のインデックス データのバックアップに失敗します。

  対処法:

  1. Search Service Application インデックスの保存先である DocAve エージェント サーバー上の SP2010PlatformConfiguration.xml ファイルを編集し、システム プロバイダーを使用してスナップショットを生成することを選択します。
  2. ...¥AvePoint¥DocAve6¥Agent¥data¥SP2010¥Platform ディレクトリ内で SP2010PlatformConfiguration.xml ファイルを検索します。
  3. メモ帳で SP2010PlatformConfiguration.xml ファイルを開き、providerOption ノードを検索します。
  4. システム プロバイダーを使用してスナップショットを生成するには、providerOption ノードの値を 1 に変更します。

5. 既定では、スナップショットがディスク C に保存されます。スナップショットを保存するディスクを変更するには、DriveLetter path ノードを確認し、このノードの値としてドライブ文字を入力します。

- 1 件以上の Search Service Application を含むファーム全体をバックアップしてから、バックアップデータを使用してファーム クローン ジョブを実行し、ファーム クローン ジョブを **実行中に例外が発生** 状態で完了します。リストア後、Search Service Application の一部が機能しません。

  対処法: ファーム クローン ジョブの完了後に Search Service Application を正常に使用することができない場合、**上書きする** を競合解決として **別の場所へリストア** ジョブを実行して指定の Search Service Application を再度リストアします。

- SharePoint 2013/SharePoint 2016 のフォーム ベース認証を使用して作成したサイト コレクションに対して、最小単位レベルの **元の場所へリストア** を実行する場合、リストア ジョブの完了後、サイト コレクション内の FBA ユーザーのリストアは失敗となります。

- DocAve 6 SP5 以前の DocAve で SharePoint 2013 ファームをバックアップする場合、SharePoint サーバーの全体管理サーバーの名前は記録されないため、DocAve 6 SP6 以降の DocAve でファームの再構築を実行する際、エージェントは SharePoint サーバー上で SharePoint サーバーの全体管理を作成しません。

  対処法: 再構築されたファームで SharePoint サーバーを選択して、SharePoint 2013 管理シェルを開き、**New-SPCentralAdministration** コマンドレットを入力して SharePoint サーバーの全体管理を作成します。New-SPCentralAdministration コマンドレットの詳細については、https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/ff607841.aspx を参照してください。

- 論理 BLOB ストレージ デバイスに複数のストレージ グループが含まれている場合、ストレージ グループ間の同期用のファイルが論理デバイスに生成されます。プラットフォーム リストアでは、Windows API のコピー方法を使用して BLOB バックアップ データをバックアップ デバイスから物理デバイスにコピーしてバックアップしますが、物理デバイスでは同期用のファイルを生成できないため、リストアされた BLOB データはセカンダリ ストレージ グループに同期できません。

- Windows 2012 では、データ ファイルがネットシェア パスに保存されているデータベースは VSS を使用したバックアップに対応していません。

- リストアを実行して Web アプリケーションを別のファームにクローンする場合、ドメイン マッピングの設定に完全修飾ドメイン名を使用すると、ドメイン マッピングが正常に実行されません。これは、ドメイン マッピング設定では完全修飾ドメイン名に対応していないことが原因で発生します。

- 単一サーバー構成の SharePoint ファームでは、エージェントがインストールされたマシン名が 15 文字を超過し、かつマシンの IP アドレスが SharePoint 構成の際にデータベース サーバーの値として使

用されている場合、DocAve エージェントでこのファームのサーバー ロールについての正しい情報を得ることができません。C# API ではサーバー名の 15 文字までしか取得することができないため、DNS から取得した情報との不一致が発生します。そのため、エージェントでサーバー ロールを取得することができません。

対処法: サーバー名が 15 文字を超過する場合は、...¥AvePoint¥Agent¥bin¥AgentCommonVCEnv.config に移動し、localSPServerName の値を完全なサーバー名に変更して、修正を保存します。

- SharePoint 2013 ファーム内に複数の Search Service アプリケーションが存在しており、かつインデックス コンポーネントが同一 SharePoint サーバー内に保管されていない場合、Search Service アプリケーション バックアップの際にインデックス コンポーネントをバックアップすることはできません。
- 別の場所へリストア ジョブを実行して、**Microsoft SharePoint Foundation** Web アプリケーション サービスの停止したエージェントをカスタム エージェント グループに追加します。このグループを使用してバックアップした Web アプリケーションをリストアすると、リストア ジョブの完了後リストアした Web アプリケーションのサイトにアクセスできなくなります。

  対処法: このサイトにアクセスするためには、リストア先の Web アプリケーション URL に名前が使用されているサーバー上で **Microsoft SharePoint Foundation** Web アプリケーション サービスを開始する必要があります。
- 元の場所へリストア ジョブを実行して用語ストア Managed Metadata Service をリストアした場合、バックアップ ジョブの完了後に作成した用語グループは用語ストアに表示され続けます。

  対処法: これは、元の場所へリストア ジョブの後に IISReset コマンドを実行し、用語ストア管理ツール ページを更新することで解決することができます。
- 別の場所へリストア ジョブを実行して、ユーザー マッピングが構成された状態で Web アプリケーションおよびそのコンテンツ データベースをリストアすると、リストア ジョブは例外付きで完了となり、ユーザー マッピングは失敗します。

  対処法: リストア ジョブを実行するエージェント アカウントに対してフル コントロール権限を付与して、このエージェント アカウントを使用して別の場所へリストアを再度実行し、**競合解決** が **上書きする** に設定された状態でこの Web アプリケーション配下のンテンツ データベースをリストアすると、リストア ジョブは完了となり、ユーザー マッピングも正常に実行されます。
- ファーム クローンでは、クローン先ファームへのタグとメモのクローニングには対応していません。
- ファーム クローンでは、コネクタ BLOB データのクローニングには対応していません。また、およびファーム クローンの後にクローン先コネクタ ライブラリ内のファイルへアクセスすることはできません。SharePoint の **コネクタ設定** 画面で、リストア先のコネクタ ライブラリがリストア元のライブラリと同じストレージ場所

を使用しているが、DocAve マネージャー上ではコネクタ ライブラリの設定が何も構成されていないように見える場合、ライブラリのパスを構成しても保存することができません。

対処法: リストア先のコネクタ ライブラリ内のファイルにアクセスするためには、リストア先ファームのコンテンツ データベースに関連する RBS 設定を有効化した後、ファーム クローン後にリストア先ファームにクローニングされたスタブ データベースを使用してコンテンツ データベースを手動で関連づける必要があります。これによりリストア先のパスに保管された BLOB データが有効化され、リストア先の SharePoint コネクタ ライブラリからアクセスできるようになります。

- **上書きする** を競合解決としてプラットフォーム リストア ジョブを実行し、NewsGator 2.5 のバックアップ データを **元の場所へリストア** して、**上書きする** を競合解決としてリストア ジョブを再実行します。2 件目のリストア ジョブ レポートでは、newsgator.core.wsp が正しくリストアされていることが表示されますが、SharePoint ではこのソリューションにエラーが発生し、NewsGator サービス アプリケーションはリストアされません。

  対処法: NewsGator データのリストア前、関連する NewsGator ソリューションおよび機能を削除し、NewsGator サービス アプリケーションおよび Global Assembly Cache 内のファイルを削除します。

- 透過的データ暗号化 (TDE) が施されたバックアップ済みデータベースの [別の場所へリストア] を実行する際、事前にリストア元のマスター キーがリストア先にない場合、[別の場所へリストア] ジョブは失敗します。

  対処法: リストア先 SQL Server 上で以下の SQL ステートメントを使用してマスター キーを生成します。

  "USE master;

  GO

  CREATE MASTER KEY ENCRYPTION BY PASSWORD = '<(お使いのパスワード)>';

  Go"

  その後 [別の場所へリストア] ジョブを実行し、TDE 暗号化済みデータベースをリストアします。

  TDE 処理済みのデータベース バックアップは、マスター キーがリストア先にない場合、別の場所へリストアすることはできません。リストア先の SQL Server でマスター キーを作成するには、以下の SQL ステートメントを使用してください。

  "USE master;

  GO

CREATE MASTER KEY ENCRYPTION BY PASSWORD = '<(お使いのパスワード)>';

Go"

*__注意__: マスター キーのパスワードは、バックアップのパスワードと一致させる必要はありません。

- バックアップ ジョブの実行前にエレメント *<ForceUseCache>false</ForceUseCache>* の値を **true** に変更すると、インデックスを正常に生成することができます。
- バックアップ作業の実行中にユーザー プロファイル同期サービスが **開始済み** の状態で、同じ場所へリストア ジョブを実行してユーザー プロファイル サービス アプリケーションをリストアする場合、リストア後に同期サービスが停止します。

  対処法: この問題は、リストア ジョブ後に User Profile Synchronization Service を手動で開始することで解決できます。

- ファーム クローンを実行する前に SQL Server PowerPivot Service for SQL Server 2008 をリストア先の SharePoint ファームで構成することはできません。構成した場合、リストア先のサーバーに再接続する際にジョブが失敗となります。

  対処法: SQL Server PowerPivot Service がリストア先 SharePoint ファームにインストール・構成されている場合、以下の方法で解決します。

  - SQL Server PowerPivot Service バックアップ データがファーム クローンに使用するバックアップ ジョブに含まれていない場合、ファーム クローンを実行する前に SQL Server Power Pivot Service をリストア先 SharePoint からアンインストールします。
  - ファーム クローンに使用するバックアップ ジョブに SQL Server PowerPivot Service バックアップ データが含まれている場合、SQL Server PowerPivot の .dll ファイル (**Microsoft.AnalysisServices.SharePoint.Integration.dll**) を各 SharePoint サーバーの GAC に登録します(例 C:¥inetpub¥wwwroot¥wss¥VirtualDirectories¥42083¥bin)。

  *__注意__: リストア先の SharePoint ファームに SQL Server PowerPivot Service がインストール・構成されていないにもかかわらず、SQL Server PowerPivot Server バックアップ データがバックアップ ジョブに含まれている場合、リストア先ファームの SQL Server PowerPivot Service はファーム クローン後も動作しません。この場合、ファーム クローン ジョブ後に SQL Server PowerPivot を構成し、SQL Server PowerPivot のインストール前に指定の .dll ファイル(**Microsoft.AnalysisServices.SharePoint.Integrationd.dll** および **Microsoft.AnalysisServices.SharePoint.Integration.resources.dll**) を GAC から削除する必要があります。

VM バックアップ & リストア

- 以下のアクションを実行する場合、

  1. フェールオーバー クラスター内の Hyper-V ホスト サーバー上の 1 件のクラスターの共有ボリューム ディスクに 2 件の VM (VM1 と VM2) が保存されており、この 2 件の VM が同じ親ディスクを共有している状態で、VM1 はノード 1 に、VM2 はノード 2 に存在するものとします。

  2. VM バックアップ ジョブを実行して 2 件の VM をバックアップすると、成功するのは 1 件のバックアップのみです。

  原因: 1 件のクラスターの共有ボリューム ディスクの異なるノードに存在する VM をバックアップする場合、ホストは同時にディスクのスナップショットを作成します。VSS は別のインスタンスの実行中に実行することができないため、1 件のバックアップ プラン中に VM のスナップショットを正しく作成することができません。

  対処法: 1 件のクラスターの共有ボリューム ディスクに保存されている VM をバックアップする場合、各ノードで VM のバックアップ プランを個別に作成します。バックアップ ジョブの実行時間を管理して競合を回避します。

  ESX/ESXi または vCenter ホスト サーバーにホストされている VM を **元の場所へリストア** または **別の場所へリストア** し、リストア先データベースが NetApp 物理デバイスに存在する場合、このリストア ジョブの競合解決として **上書きする** を選択します。データベースの空き容量が VM の合計サイズ未満になる場合、リストア ジョブは失敗します。

  原因: DocAve が VM のリストアを開始する際、NetApp 物理デバイス プロパティのために競合 VM データは完全にデータベースから削除されていません。そのため、データベースに VM をリストアする空き容量が不足しています。

  対処法: リストア ジョブの失敗後、リストア先ホスト サーバーで vSphere 経由でデータ ストアの空き容量を表示することができます。データ ストアの空き容量が VM の合計サイズを超過している場合、リストア ジョブを再実行します。

- 以下のアクションを実行する場合、

  1. VM バックアップ ジョブを実行して VM をバックアップします。

  2. ファイル レベルの VM リストア ジョブを実行し、**元の場所へリストア** または **VM の場所にリストア** リストア タイプを使用してバックアップされた VM ファイルを ESX/ESXi または vCenter ホスト サーバーにリストアし、リストア ジョブの実行に使用するエージェント上の VMConfiguration.xml ファイル内の MaxWorkThreadsCount="」属性を 1 に設定します。

3. この VM リストア ジョブによってリストアに失敗したファイルが存在します。
4. ジョブ詳細に **操作は現在の状態では許可されません。** というメッセージが表示されます。

対処法: 別のファイル レベルの VM リストア ジョブを実行し、リストアに失敗したファイルをリストアします。

インストール

- Windows Server 2012 および Windows 8 環境で DocAve 6 プログラムを検索すると、DocAve 6 ショートカットは既定で Internet Explorer (IE) 10 の Metro UI 版で開きます。IE 10 では Silverlight 5.0 に対応していないため、スクリーン解像度が低いので IE が実行できない旨のメッセージが表示されます。

  対処法: IE 10 デスクトップ版、または Windows 8.1/Windows 2012 R2 環境 (デスクトップからのショートカットを使用するなど) の IE 11で DocAve 6 を開きます。

- WIndows アップデート KB2756920 をインストールした後にコントロール サービスにアクセスできない状態が発生した場合、ホットフィックス KB2637518 をインストールすることで解決します。ダウンロード リンクは **Microsoft® サポート 技術情報** 内にあります。

移行

SharePoint 移行

- 以下のアクションを実行する場合、

  1. SharePoint 2007/2010/2013 ライブラリのライブラリ設定で **送信されたアイテムに対するコンテンツの承認を必須にする** および **メジャー バージョンとマイナー (下書き) バージョンを作成する** を選択します。

  2. このライブラリを移行元として選択し、SharePoint Online ライブラリを移行先として選択して移行ジョブを実行します。

  3. 移行元ライブラリ内のドキュメントの **拒否** および **承認待ち** 承認状態が移行先の **下書き** に移行されます。
  原因: ライブラリ設定で **送信されたアイテムに対するコンテンツの承認を必須にする** を選択した状態でも、DocAve は **変更日時** および **変更者** 列の値を保持します。

  SharePoint Online Client API の制限により、ドキュメントの承認状態および **変更日時** および **変更者** 列の値を同時に保持することはできません。

対処法: 移行ジョブで使用するプロファイルの **<ExtendNode><NewFlags … />** ノード内の **isKeepModerationToOffice365="「** パラメーターの値を **True** に設定し、移行元ドキュメントの承認状態を保持します。**変更日時** および **変更者** 列の値を同時に保持することはできません。

- **ブログ** テンプレートを使用した SharePoint 2007 サイトから SharePoint 2016 のノードへの移行ジョブを実行する場合、移行先サイトのホームページのサイド リンク バーに **カテゴリ** が表示されません。これは、**カテゴリ** Web パーツの **ビューの選択** プロパティが正しく移行されていないためです。

  対処法: 移行先で **カテゴリ** Web パーツを編集して保存します。

- **ブログ** テンプレートを使用した SharePoint 2010 サイト コレクションから、SharePoint 2016 の手動で入力したサイト コレクションへの移行ジョブを実行する場合、移行元サイト コレクションのホームページの **RSS** フィード リンクが移行先に移行されません。これは、**RSS** フィード リンクは SharePoint 2010 では **投稿** Web パーツに保存され、SharePoint 2013 では **ブログ リンク** Web パーツに保存されていますが、SharePoint 2010 には **ブログ リンク** Web パーツが存在しないためです。

  対処法: 移行ジョブの終了後、**ブログ リンク** Web パーツを移行先サイト コレクションのホームページに手動で追加します。

- SharePoint 2007 ライブラリで作成した **集計値** 列で、**=[Content Type]** を列の数式の値として構成した場合、SharePoint 2007 から SharePoint Online への高速移行ジョブを実行する際に、**集計値** 列が移行先に移行されません。これは、SharePoint Online には **集計値** 列に関連付けることのできる **コンテンツ タイプ** 列が存在しないためです。

- SharePoint 2007 サイト コレクションから SharePoint Online サイト コレクションへの高速移行で、**コンテナの作成** 機能を使用して新しい SharePoint Online サイト コレクションを移行先として作成する場合、移行元サイト コレクションに以下のテンプレートが含まれると、サイト コレクションは作成できません。**一般的な会議ワークスペース**、**空の会議ワークスペース**、**意思決定の会議ワークスペース**、**イベントの会議ワークスペース**、**複数ページの会議ワークスペース**、**レポート センター**、**発行ポータル**、**グループ作業ポータル**、**サイト ディレクトリ**、**空のサイト**、**Wiki サイト**、**ドキュメント ワークスペース** これは、上記のサイト コレクション テンプレートが SharePoint Online に存在しないためです。

- **レポート センター** テンプレートを使用する SharePoint 2007 サイト コレクションを SharePoint 2016 の手動で入力したノードに移行する場合、移行されたサイト コレクションのホームページが移行

先で正しく表示されません。これは、**レポート センター** サイト コレクション テンプレートが SharePoint Online に存在しないためです。

- 移行ジョブでは、**FAST 検索センター**、**寄付金管理 Web データベース**、**案件管理 Web データベース**、**プロジェクト Web データベース**、**連絡先管理 Web データベース** テンプレートの SharePoint 2010 サイト コレクションは SharePoint 2016 に移行できません。これは、上記のサイト コレクション テンプレートが SharePoint 2016 に存在しないためです。

- SharePoint 2007/2010/2013 サイト コレクションを SharePoint Online に移行する場合、ドキュメント ID に関連されている **参照** 列の値が正しく移行先に移行されません。SharePoint Online クライアント API の制限により、DocAve ではドキュメントの行 ID を保持できません。
- SharePoint 2007 から 2010 への移行ジョブを実行し、SharePoint 2010 Web アプリケーション内で管理パスを作成した場合、移行先として手動で作成したサイト コレクションを選択すると、Web アプリケーション ノードを更新しても新しく作成した管理パスが移行先のツリーに読み込まれません。

  対処法: Web アプリケーションのあるファーム ノードを更新する必要があります。

eRoom 移行

- eRoom 内の Windows NT ドメイン タイプを使用してディレクトリ接続を追加し、このドメインからユーザーおよびグループを eRoom へ同期したのち、同期したグループから新たにグループを追加して同一ドメイン内の SharePoint に eRoom を移行すると、グループの移行に失敗します。これは、eRoom 移行ではディレクトリ接続名をドメイン名として使用するため、eRoom 移行時に 2 つの異なるドメイン間での移行と認識されてしまうために発生します。

  対処法: 移行元の eRoom 接続名と移行先のドメイン名をマッピングするようドメイン マッピングを構成します。

パブリック フォルダー移行

- オンプレミス版 Outlook から OWA (Outlook Web App) に向けて、または OWA からオンプレミス版 Outlook に向けてメールを返信する際、メールの件名を変更すると、返信メールのスレッド インデックス プロパティの値が変更され、それ以降の返信が同じトピックで処理されなくなります。返信や転送メール、元のメールなどを移行先 SharePoint 内のディスカッション掲示板に移行する場合、スレッド インデックスの値に変更があった返信や転送メールは、移行先で同じトピックとして移行されることはありません。

EMC Documentum 移行

- 互いに属性を継承しあう 2 種類の Documentum タイプが移行後も移行元に存在している場合、これら 2 種類の SharePoint コンテンツ タイプは移行先で継承を保持しません。

  *__注意__: EMC Documentum のタイプは SharePoint のコンテンツ タイプと同じものになります。

ファイル システム移行

- ファイル システム移行を実行する際に、移行先としてドイツ語サイトを指定してプランを保存し、メタデータ ファイルの手動での構成を選択した場合、保存する Microsoft Excel ファイル上でドイツ語の翻訳を手動で編集する必要があります。既定の用語セットのパス: システム; キーワード内の [キーワード] のドイツ語訳が SharePoint 訳と一致しません。

  対処法: Excel ファイルを開き、Schlüsselwörter を Schüsselwörter (SharePoint 訳に合わせるため) に変更して Excel ファイルを保存し、ジョブを再実行します。これにより、既定値が [システム; キーワード] の状態で管理されたメタデータ列が移行先ノードに作成されます。

Livelink 移行

- Active Directory フェデレーション サービスを使用する移行先 SharePoint 2013 環境にデータを移行すると、ユーザー マッピング設定で構成されていないユーザーが移行先に移行されます。

  原因: この問題は SharePoint API の制限に起因します。

- Livelink 高速移行を実行すると、**ジョブ モニター** > **ジョブの詳細** 画面で、入れ子リストおよびディスカッション トピックの移行済みタスクの URL が、移行先で誤ったオブジェクトにリンクされます。この問題は、オブジェクトが移行元での順序と同じく移行されず、Azure ログから移行先の URL 情報を取得できないため、Livelink 高速移行では正確な移行先アイテム URL を確認できないことに起因します。

- 移行元のノードを選択してインポート モード プランを作成する際に、以下のエラーが発生する可能性があります。XML ドキュメントにエラーが発生しました ([行番号], [列番号])。これは移行元オブジェクト名内の禁則文字に起因します。

  対処法: エラー メッセージ内の行番号と列番号は XML ファイル内の禁則文字の場所を示しています。

  - Livelink 移行の場合、[構成したエクスポート先の UNC パス]¥LiveLink Exported Data¥[エクスポートされたプラン ID]¥AgentImportTree.xml に移動して、禁則文字を削除

するか、別の文字で置き換えます。

- Livelink 高速移行の場合、[構成したエクスポート先の UNC パス]¥LiveLink High Speed Migration Exported Data¥docavededicated¥[エクスポートされたプラン Id]_[ジョブ ID]_AgentImportTree.xml に移動して、禁則文字を削除するか、別の文字で置き換えます。

Notes/Domino 移行

- G:A など、移行元グループ名にコロン (:) が含まれる場合、移行ジョブを実行し、移行元グループを SharePoint Online サイトに移行すると、ジョブの完了後、移行元グループはジョブ モニターで **成功** としてマークされますが、SharePoint Online サイトで結果を確認すると、移行元グループ G:A は NT AUTHORITY¥authenticated ユーザー グループに移行されています。
  原因: SharePoint Online は、名前にコロン (:) が含まれる移行元グループを適切にする処理ことができません。

  対処法 1: **プロファイル設定** > **マッピング オプション** > **セキュリティ マッピング** > **グループ マッピング** の順に移動します。グループ マッピングを追加し、移行元グループ名内のコロン (:) を置き換えます (例: G:A を G_A にマッピング)。このプロファイルを移行ジョブに適用します。
  対処法 2: **プロファイル設定** > **マッピング オプション** > **セキュリティ マッピング** > **AD グループ マッピング** の順に移動します。AD グループ マッピングを追加し、移行元グループを既存の Office 365 セキュリティ グループにマッピングします (例: G:A を Office365AD:GA にマッピング)。GA が Office 365 内の使用可能なセキュリティ グループであることを確認し、このプロファイルを移行ジョブに適用します。

Quickr 移行

- Quickr 移行ジョブの実行で、ジョブを開始した直後に停止すると、ジョブが **停止中** 状態となり、1 時間半後にジョブは通信失敗によって失敗となります。これは、ジョブの停止アクションを実行したのが早すぎて、通信が既に無効になっていても、移行先 DocAve エージェントが移行元 DocAve エージェントからバックアップ データを受信してしまうことに起因します。

レポート ポイント

- SharePoint サイトの最終アクセス時刻レポート、ワークフロー レポート、SharePoint 通知レポート、ユーザー ストレージ サイズ レポートの保存・実行後、**SharePoint サイト設定** に移動してサイト URL を変更します。DocAve レポート ポイントで、コレクター ジョブを実行し、上記のレポートを再生成すると、レポートが表示されません。

対処法: サイト URL の変更後、プランまたはプロファイル内の範囲ツリーを更新してからレポートを生成します。

- フランス語環境のサイト コレクションに展開されたレポート ポイント ダッシュボード Web パーツに Internet Explorer 8 でアクセスする場合、Web パーツ内の一部の GUI アイテムが正しく表示されません。原因:シングル クオテーション マークを含むフランス語の GUI アイテムは Internet Explorer 8 でエスケープすることが出来ないため発生します。

  対処法: 元の Web パーツを削除してから、新しい Web パーツを追加します。

- フランス語環境のサイト コレクションに展開されたレポート ポイント ダッシュボード Web パーツに Internet Explorer 8 でアクセスする場合、Web パーツ内の一部の GUI アイテムが正しく表示されません。原因:シングル クオテーション マークを含むフランス語の GUI アイテムは Internet Explorer 8 でエスケープすることが出来ないため発生します。

  対処法: フランス語環境のサイト コレクションに展開されているレポート ポイント ダッシュボード Web パーツにアクセスする場合は、Internet Explorer 8 以外のブラウザを使用してアクセスしてください。

- Google Chrome ブラウザーを使用して **利用状況アクティビティ Web パーツ** の詳細を表示する場合、**詳細の表示** ウィンドウで **[クスポート]** をクリックします。新しいウィンドウが表示されますが、上に移動します。構成することができない設定が存在します。

  対処法: お使いの Google Chrome ブラウザーを最新バージョンに更新します。

- レポート ポイント ダッシュボードの **アクティビティのランキング** Web パーツで、ユーザーは権限チェッカーが有効になっているページ (ユーザーがアクセス不可) を表示することができませんが、ユーザーがエクスポートしたレポートにはアクセスできないページが含まれます。

  対処法: レポート ポイント内の **利用状況アクティビティ Web パーツ設定** を使用してフィルターを構成し、それらのページを排除します。

- レポート ポイントの **利用状況アクティビティ Web パーツ** が追加されたページの名前を変更すると、Web パーツは何のデータもレポートできません。

  対処法: Web パーツの保存先であるページの名前の変更後、Web パーツを削除してから再度追加します。

- Web パーツがチェックアウト済みページの何のデータもレポートできない場合、前に収集したこのチェックアウト済みページは削除されます。これにより、このページが再度チェックインされる場合、ページのデータを収集することができません。

対処法: Web パーツが存在するページを編集し、これらの Web パーツを削除します。Web パーツを再度挿入し、**[保存]** をクリックして構成を保存します。チェックアウト済みページをチェックインし、**発行** タブ内の **[発行]** をクリックして変更を発行します。これにより、このページのデータを収集することができます。

- トップ ドキュメント Web パーツをサイト A に追加し、サイト B をカスタム レポート範囲として構成します。サイト B を削除し、サイト B の URL と同じサイトを作成します。URL の大文字と小文字が一致します。データの収集ジョブはデータを収集することができますが、レポートを表示することができません。
  トップ ドキュメント Web パーツを新規作成されたサイトに追加し、**サブサイトを含む現在のサイト** をカスタム範囲として設定します。データの収集ジョブを実行します。**ドキュメント詳細のコレクター** および **フォロー データのコレクター** ジョブが開始されません。
  新規追加されたサイトの URL の大文字と小文字が異なる場合、**ドキュメント詳細のコレクター** および **フォロー データのコレクター** ジョブが開始されません。
  トップ Wiki Web パーツにも同じ問題が存在します。データの収集ジョブは開始しますが、収集されるデータは存在しません。

  対処法: サイト A 内の Web パーツの Web パーツ プロパティを編集します。**ソーシャル プロパティ** 画面で **[選択の変更]** をクリックします。**オブジェクト選択** フィールド内のサイト B を再度選択し、**[OK]** をクリックします。

- Internet Explorer 7 を使用してソーシャル アクティビティ Web パーツを表示・編集する場合、Web パーツの **プロパティの編集** 画面内の Web パーツのデータ、レイアウト、ハイパーリンクで予期しないエラーが発生する可能性があります。

  対処法: Internet Explorer 8 以上のバージョン、最新バージョンの Firefox または Google Chrome を使用してソーシャル アクティビティ Web パーツを表示・編集します。

- DocAve 6 SP2 またはそれ以下のバージョンを DocAve 6 SP4 に更新後、レポート ポイントに 2 件の問題が存在します。
  - 更新前に監査データを取得した範囲の監査マネージャー レポートを生成します。生成された監査マネージャー レポートで、**ユーザー** 列内のすべての値は **削除済みユーザー** として表示されます。
  - 失敗したログイン試行プランのレポートを表示します。このレポートは失敗したログイン試行レポート プロファイルから更新され、該当のプロファイル データは更新前に収集されました。レポートで、ユーザーの表示名はログイン名と同じです。

  更新中、監査データベース内の UserInfo 表が空きにされます。

対処法: DocAve 6 SP2 以下のバージョンから更新されており、データがコレクターまたは監査コントローラー プランから取得されたプラン / プロファイルに対して、該当のレポートの表示前にデータを取得するジョブを実行する必要があります。

- **監査マネージャー レポート** 画面で、左側の 4 件のアコーディオン セクションを折りたたみます。ブラウザー ウィンドウを非常に小さいサイズに縮小してから、ウィンドウを最大化します。左側のアコーディオン セクションに、画面に表示されていないセクションが存在します。

  対処法: Web ページを更新し、DocAve に再度ログインします。

- ファーム レベルでのベスト プラクティス レポートには、評価の数は含まれません。(SharePoint 2013 で発生)

- フランス語環境のサイト コレクションに展開されたレポート ポイント ダッシュボード Web パーツに Internet Explorer 8 でアクセスする場合、Web パーツ内の一部の GUI アイテムが正しく表示されません。原因:シングル クオテーション マークを含むフランス語の GUI アイテムは Internet Explorer 8 でエスケープすることが出来ないため発生します。

  対処法: フランス語環境のサイト コレクションに展開されているレポート ポイント ダッシュボード Web パーツにアクセスする場合は、Internet Explorer 8 以外のブラウザを使用してアクセスしてください。

- DocAve のバージョンを SP3 CU2 にアップデートした後に SharePoint の Web パーツを再展開しない場合、ソーシャル データの収集と保存に問題が生じる場合があります。

- DocAve 6 から SP 5 へアップグレードした後、利用状況レポート画面で過去に作成したサイト レベルの最終アクセス時刻から更新したプランを選択して、リボン上で **[レポートを表示]** をクリックすると、**レポートを表示** 画面に表示されるレポートのサイト コレクション URL 列には何のデータも表示されません。

  対処法: このデータは、過去に作成したサイト レベルの **最終アクセス時刻** プロファイルから利用状況レポート プランのレポートを生成してから、**レポートを表示** 画面でレポートを表示することで確認することができます。

- SharePoint 2013 ファーム内の SharePoint 2010 エクスペリエンス バージョンのサイト コレクションのトップ ディスカッションおよびトップ ブログの投稿 Web パーツでは、SharePoint 2010 では いいね! 機能が無いにもかかわらず、SharePoint 2013 エクスペリエンス バージョンのサイト コレクション内でディスカッション掲示板の いいね! データや Web パーツが収集されます。結果として、いいね! はディスカッションの数とブログ投稿のアクティビティ総数には含まれますが、レポートには表示されません。

- ソーシャル アクティビティ Web パーツの範囲を [サブサイトを含む現在のサイト] に設定し、その後新しいサブサイトを作成した場合、ソーシャル コレクターは新しく作成されたサブサイトを認識しません。

対処法: 新しいサブサイトの作成後 Web パーツのソーシャル プロパティに移動し、**[選択の変更]** をクリックしてアイテム表示の構成ウィンドウを開き、**[OK]** をクリックして構成を保存します。オブジェクト選択のアップデート後は、この Web パーツ のデータは正常に収集されるようになります。

- SharePoint 2013 環境では、評価データは各アイテムおよびドキュメントのプロパティとして、ソーシャル データベースではなく該当のコンテンツ データベース内に保存されますが、これによりファーム レベルでアイテムおよびファイルすべての評価データを取得できにくくなります。各コンテンツ データベース内に保存された評価データはソーシャル データベースに関連するものではなく、ソーシャル データベースの制限に含めるべきではないことに注意してください。
- DocAve では、発行側ファームの共有サービス データと使用側ファームの共有サービス データは識別されません。このため、両ファームのデータは一括で表示され、ファームごとに分けられることはありません。
- **AvePoint トップ ドキュメント** もしくは **AvePoint トップ Wiki ページ** Web パーツで取得した閲覧用のデータを含むドキュメントまたは Wiki ページを削除する場合、閲覧用のデータも同時に消去されます。SharePoint のごみ箱から削除済みコンテンツをリストアし、レポート ポイントでソーシャル データ コレクター ジョブを実行しても、[すべて] の期間オプションが適用されたリストア済みコンテンツの閲覧用のデータでは、復元後に閲覧された回数しか表示されません。

ストレージ最適化

アーカイバ

- **ドキュメント セット** コンテンツ タイプをライブラリに追加します。ドキュメント セットを作成し、ファイルをドキュメント セットに追加します。アーカイバ ジョブを実行してこのライブラリをアーカイブしてから、ライブラリをリストアした後にドキュメント セットにアクセスすると、ドキュメント セットが正常に表示されません。

  原因: この問題はブラウザーのキャッシュに起因します。

  対処法: キャッシュを削除して再試行します。

- エンド ユーザー アーカイバ設定を構成し、エンド ユーザーに対してサイト コレクションで **タグ付け** アクションを有効にします。エンド ユーザーがドキュメントをタグ付けした後、サイト コレクション URL を変更すると、サイト コレクションでエンド ユーザーは **タグ付け** アクションを使用することができません。

  原因: サイト コレクション URL の変更後、**アーカイブ済みデータのタグ** フィールドで構成されたリストが存在しなくなります。

対処法: エンド ユーザー アーカイバ設定の **アーカイブ済みデータのタグ** フィールド内のリスト URL を更新します。

- SharePoint 2016 の制限により、**表示** アクションを **アイテム** レベルでのみ実行する場合、サイト コレクション、サイト、リスト、ライブラリの **最終アクセス時刻** が更新されます。そのため、アーカイバ ルールで **サイト コレクション**、**サイト**、**リスト / ライブラリ** オブジェクト レベルおよび **最終アクセス時刻** ルールを選択して SharePoint 2016 ノードに適用する場合、サイト コレクション、サイト、リスト、ライブラリに対して **表示** アクションを実行してからアーカイバ ジョブを実行すると、アクションが構成したルールを満たしている場合でも、サイト コレクション、サイト、リスト、ライブラリはスキャンされません。
- 13 文字を超えるファイル名を持つアーカイブ済みファイルを SharePoint からダウンロードした場合、ダウンロードしたファイルのファイル名は 13 文字しか表示されません。この問題は SharePoint による HTTP ヘッダーのパラメーターの長さ制限により発生します。
- エンドユーザー アーカイバでは、エラー メッセージの構成インターフェイスで選択済みノードに対するエラー メッセージを構成の際、入力するテキストをキーボード上の Ctrl + V により貼り付け、**[保存]** をクリックし、更新したエラー メッセージを保存するとエラーが発生します。これは、Silverlight 5.0.61118.00 内のバグが原因で発生します。DocAve マネージャーがインストールされたサーバー上で Silverlight を更新する必要があります。
- DocAve 6 サービスパック (SP) 3 を SP4 に更新する場合、更新完了後は SharePoint 内のアーカイブ済みデータ (SP3 でアーカイブ) に対する検索権限を持つユーザーは、アーカイブ済みデータを閲覧できなくなります。これは、2 つの DocAve バージョン間で生じるロジックの違いにより発生します。

  対処法: DocAve マネージャーへログインし、**コントロール パネル > インデックス マネージャー** で、SP3 で使用していたプロファイルと同様の設定が適用されたインデックス プロファイルを新規に作成します。ここで作成されたプロファイルは SP4 で使用されます。
- DocAve 6 SP3 を使用してアイテム・アイテム バージョンをアーカイブするアーカイバ ジョブを実行してから SP4 への更新を行う場合、SP3 でアーカイブされたアイテム・アイテム バージョンを SP4 のアイテム タイトルおよびアイテム バージョンのルールを活用して検索することはできません。この問題は、2 つの DocAve バージョン間で生じるインデックスの違いが原因で発生します。SP3 内のジョブでは、アイテム タイトル用の全文インデックスは生成されません。
- DocAve 6 SP3 を SP4 に更新する場合、SP3 で実行したアーカイバ ジョブを選択し、ジョブ モニターで **[ジョブ ログのダウンロード]** をクリックします。これにより、アーカイバ ジョブのログはダウンロードされますが、処理プールのログはこのなかに含まれません。この問題は、SP3 で取得した処理プールのログにジョブ ID が含まれないため発生します。

- SharePoint 2010 ファームのみ DocAve に存在する場合、アーカイバ リストア インターフェイス内の全文インデックス モードで、高度検索ポップアップ ウィンドウにニュースフィード アイテムがルールとして表示されます。ツリー ノードを選択する前に、高度検索の機能は SharePoint 2010 および SharePoint 2013 の両環境で表示されます。
- ニュースフィードの投稿ルールが適用された WSS 2013 ノードに対してアーカイバ ジョブを実行する場合、ジョブの完了後にニュースフィードの投稿をすべてアーカイブできなくなります。この問題は、WSS 2013 環境ではユーザー プロファイル サービスに対応していないため発生します。
- [データをアーカイブする際にデータを SharePoint に保持する] オプションを選択するアーカイバ ルールを作成し、[次のオプションを選択して各ドキュメント / アイテムにタグを付ける] チェックボックスを選択、選択したノードがチェックアウト済みファイルを含むアーカイバ ジョブを実行する場合、アーカイバ ジョブの完了後、チェックアウト済みファイルにはアーカイバ ルールで指定した列の値が表示されません。この問題は、ファイルをチェックアウトする際に [ローカルの下書きフォルダーを使用する] チェックボックスを選択すると発生します。このロジックは SharePoint のロジックと一致します。ファイルをチェックアウトする際に [ローカルの下書きフォルダーを使用する] チェックボックスを選択すると、このファイルのプロパティを編集することができません。
- ノードに対するエンドユーザー アーカイバ リストア用の必須権限を変更し、アーカイバ ジョブを実行しない場合、ノードへの十分な権限を持つユーザーはアーカイバ済みデータを一切閲覧できないか、アーカイバ リストア ジョブを実行することができなくなります。ノードのリストア権限は Index.db ファイルへ保存されます。Index.db はアーカイバ ジョブの実行後にのみ更新されます。
- アーカイバ リストアの全文インデックス モードで高度検索の機能を使用する際、[次の値を含む] および [次の値に一致する] 条件では、* はワイルドカードとして使用され、データを検索します。

  対処法: スラッシュ (¥) を * の前に挿入することで通常の文字として扱われます。
- テンプレートが発行ポータルであるサイト コレクションを選択し、このサイト コレクションに対してドキュメント ルールを適用、アーカイバ ジョブを実行する場合、ジョブの完了後にサイト コレクションのホームページ上の built-in 画像は表示されません。このタイプのサイト コレクションで使用される built-in 画像はスタイル ライブラリおよびイメージ ライブラリに保存され、アーカイバ ジョブに含まれます。
- ツリー ノード内の SharePoint Server 発行インフラストラクチャのサイト コレクションの機能、および SharePoint Server 発行のサイトの機能がアクティブなサイト コレクションを選択すると、このサイト コレクションのページ ライブラリ配下に大量のページ バージョンが存在することになります。サイト コレクションにサイト コレクションのルールを適用し、アーカイバおよびアーカイバ リストア ジョブを実行すると、バージョンによりページのサイズが異なります (旧バージョンで発生)。これに加えて、アーカイバ リストア ジョブの実行前と後では、現在のバージョンのページは異なって表示されます。この問題は SharePoint の制限により発生します。

- 更新マネージャーで DocAve 6 サービス パック (SP) 2 を SP3 にアップグレードし、AgentCommonWrapperConfig.config ファイルを更新してアーカイバの最終アクセス時刻ルールに使用されるロジックを変更します。この作業をしても、構成ファイルで SharePoint 内の該当するストレージ マネージャーのスタブに対する最終アクセス時刻の使用を指定している場合、もう一方のロジック (監査データ取得ジョブにより取得された最終アクセス時刻を使用する) を適用したポップアップ ウィンドウが表示されます。ポップアップ ウィンドウは DocAve マネージャーによって管理されます。DocAve マネージャーは AgentCommonWrapperConfig.config ファイルが変更されたかどうかを監査できないため、どのロジックを使用してもポップアップ ウィンドウは表示されます。

- アーカイバ列を含んだ各ファイルにタグ付けをするアーカイバ ジョブを実行、アーカイバ ジョブの SharePoint データを変更、および同じノードでアーカイバ ジョブを再度実行すると、アーカイバ列の値はまだ存在します。これは、データのバックアップ中は DocAve ではアーカイバ列およびカスタム列の識別ができないため発生します。アーカイバ列の値はすべてバックアップ・リストアされます。

- アーカイバ ルールで [各ドキュメントのスタブを SharePoint に保持する (ストレージ マネージャーを使用)] チェックボックスを選択して、SharePoint 2013 環境で Microsoft Office ファイルを含むノード上でアーカイバ ジョブを実行します。この時、SharePoint データは変更せず、[各ファイルを SharePoint レコードとして宣言する] チェックボックスを選択して再度同じノード上でアーカイバ ジョブを実行すると、アーカイバ ジョブは例外を含み完了します。[各ファイルを SharePoint レコードとして宣言する] チェックボックスを選択してアーカイバ ジョブを実行すると、ストレージ マネージャーのスタブは実コンテンツに変換されます。

- サイト コレクションからサイトへの権限継承を解除し、サイト コレクションにグループを追加、エンドユーザー アーカイバ リストアのサイト コレクションに対する必須権限をグループに付与します。この後サイトおよびサイト コレクション上でアーカイバ ジョブを実行すると、グループ内のユーザーはまだサイト内のアーカイブ済みコンテンツを閲覧・ダウンロード・リストアすることができます。

- SharePoint 2010 エクスペリエンスのサイト コレクションと SharePoint 2013 エクスペリエンスのサイト コレクションの両環境でアーカイバ ソリューションを展開すると、ソリューション コレクションのうち 1 つを取り消す際にアーカイバ ソリューションが取り消されます。この問題は SharePoint ロジックにより発生します。

  対処法: **コントロール パネル > ソリューション マネージャー** で、サイト コレクション上で取り消し済みアーカイバ ソリューションを展開します。

- 個人用サイトを作成したことのないエージェント アカウントを使用して、サイト コレクションのニュースフィードの投稿を投稿、アーカイバ ルールのニュースフィード投稿レベルをサイト コレクションに適用し、アーカイバ ジョブを実行する場合、新しく投稿されたニュースフィードの投稿に対するスキャンは失敗します。

  対処法: このエージェント アカウントを活用して個人用サイトを作成します。

- DocAve 6 SP2 CU1 を使用して、エンドユーザー アーカイバ ソリューションをファーム内の Web アプリケーションの一部に展開、DocAve マネージャーおよびエージェントを DocAve 6 SP4 に更新し、エンドユーザー アーカイバ ソリューションが展開されていない Web アプリケーションのエンドユーザー アーカイバの機能を使用すると、この機能に対する GUI アイテムが正常に表示されません。

  対処法: インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーの Web アプリケーションの Web サイトを再起動します。

- アーカイバでは、SharePoint 2013 環境のアプリをアーカイブすることはできません。
- アーカイバの全文インデックス モードで検索機能を使用すると、検索したインデックス データのツールチップの検索キーワードはハイライトされません。これは、インデックス データが DocAve 6 サービス パック SP3 以前の DocAve バージョンで生成された場合に起こります。

コネクタ

- **WMS に関連付けられたネット シェア** ストレージ タイプのコネクタ パスを構成する際に、公開ポイント名の検証が存在しません。そのため、誤った公開ポイント名が入力された場合、コネクタ パスを保存することはできますが、ビデオ ファイルを WMS サーバーで再生することができません。

  対処法: コネクタ パスの構成ページで正しい公開ポイント名に更新するか、Windows Media Player を使用します。

- SharePoint のバグのため、Web アプリケーションのコンテンツ データベースの RBS プロバイダーが有効になっている場合、SharePoint 2013 から SharePoint 2016 へのデータベース アップグレードが失敗となります。アップグレード コマンドの実行前に RBS プロバイダーを無効にすると、データベースが正常にアップグレード可能になります。

- SharePoint 2016 コネクタ ライブラリに 400,000 件のファイルを同期すると、ジョブがタイム アウトとなり、CPU 使用率が極めて高くなります。ただし、ファイルはすべて移動先に同期できます。これは、SharePoint API 制限のため、リソースが開放されないことが原因で発生します。
- SharePoint 2016 メディア ライブラリはコネクタ ライブラリに変換できません。
- **フォームベース認証** が有効になっているサイト、または HTTPS プロトコルを使用しているサイトでは、.rmvb ビデオおよび .rm ビデオが起動しません。これらのサイトで Real Player プラグインを使用してビデオを再生することは推奨されません。
- SharePoint の Explorer ビュー上で大量のコネクタ スタブ、または大量のコネクタ スタブを含んだフォルダーを別のリストへと移動する場合、**このアイテムは見つかりません** というエラーが表示されることがありますが、フォルダーおよびコネクタ スタブは移行先へ正常に移動されます。この問題は SharePoin

t の制限により発生します。詳細な情報については、TechNet の記事 (Issues Uploading Large Files to SharePoint) をご参照ください (英語)。

- ネットシェア パスを使用し、バージョン管理が有効になっているコネクタ ライブラリについては、過去にメジャー バージョンを発行しており、かつ複数のマイナー バージョンを持つドキュメントの発行を解除する場合、.fsdl¥history フォルダー内のファイル データが失われる可能性があります。これは SharePoint の問題です。
- 接続先フォルダー内のファイル数が 5000 を超える場合、接続先フォルダーのサブフォルダー内のファイルは SharePoint コネクタ ライブラリに同期されません。この問題は SharePoint API の制限により発生します。Microsoft では、1 つのリスト ビュー内で 5000 を超えるアイテムを一度に表示することを推奨していません。これは、SharePoint API でサブフォルダーの数を計算する際に問題が発生することが原因です。

  対処法: SharePoint 全体管理を開き、**アプリケーション構成の管理 > Web アプリケーションの管理** へ移動します。お使いのリストをホストする Web アプリケーションを選択します (例: SharePoint - 80.4)。リボン上で **[全般設定]** を選択し、**[リソースの調整]** をクリックします。リスト ビューのしきい値の上限が 5000 と表示されるので、値を編集します。**[OK]** をクリックして構成を保存します。
  注意: この対処法を実行すると、パフォーマンス問題を引き起こす可能性があります。
- サイト URL が長すぎる場合は、SharePoint 上で **コネクタ設定** ページに移動することができません。これは SharePoint の制限が原因です。**コネクタ設定** ページに移動する際に URL が 260 文字を超過する場合、エラーが表示され、ページへ移動することができません。
- コネクタ設定で、**ファイル システムからメタデータの読み込み** フィールドの [ファイル システムからメタデータを読み込む] を選択します。パスが長すぎる (255 文字を超える) ファイルのメタデータは SharePoint へ同期されません。SharePoint API では、パスが 255 文字を超えるファイルのメタデータを取得することができません。
- SharePoint 2010 エクスペリエンス バージョンのテンプレートを使用して作成した SharePoint 2013 サイト コレクションでは、コネクタのライブラリを作成することはできません。
- エージェント サービスの中断中に SharePoint コネクタ ライブラリ内のファイルおよびフォルダーの名前が変更された場合、変更は構成パスの先には同期されません。
- SharePoint 2010 から SharePoint 2013 にアップグレードする際、コネクタ ライブラリに変換したメディア ライブラリは現状アップグレードすることができません。メディア ライブラリ内のデータは、アップグレード後は使用できなくなります。
- SharePoint の制限上の理由から、Information Rights Management は接続データのバージョン ファイルには対応していません。

- ストレージ内にあるファイルのサイズが SharePoint 側では異なる場合、ストレージ側でのファイルの編集は可能でも、SharePoint 上ではこのファイルを開けない可能性があります。

  対処法: ファイルを再度開くか、同期ジョブを実行します。

- サファリのブラウザーではコネクタのリンクをアップロードすることができません。これは、サファリが Silverlight に対応していないため発生します。

- SharePoint 2010 のコネクタ ライブラリでは、サイト コレクションのごみ箱からファイルをリストアする場合、ストレージ場所に存在するファイルは非表示の .fsdl フォルダーからネットシェア フォルダーに移動しません。これは、SharePoint 2010 の制限によるものです。サイト コレクションのごみ箱からファイルをリストアする際にイベント ハンドラ―が起動しないため、コネクタはこのイベントを識別することができません。

  対処法: 同期ジョブを実行することで、ストレージ場所にあるファイルが正しい場所へリストアされます。

- コネクタ先のフォルダーがコネクタ先の環境内のごみ箱フォルダー (...¥fsdl¥_r) にまだ残っているため、SharePoint のごみ箱から SharePoint へフォルダーをリストアし、[コネクタ リンク ファイルのアップロード] を使用して、ファイルをリストアしたフォルダーへアップロードする場合、ファイルのアップロードに失敗する可能性があります。フォルダーをリストアし、ファイルをアップする前に同期が正常に機能していない場合、コネクタ ごみ箱フォルダー (...¥fsdl¥_r) 内に関連するストレージ フォルダーが残っています。

  対処法: 同期を実行してフォルダーをストレージ システムの正しい場所に移動します。

- HTTPS プロトコルを使用しているサイトでは、.m4v、.mp4、.wma、および .3gp ビデオは起動しません。

- コネクタ リンク ファイルを含むフォルダーを SharePoint のごみ箱へ削除し、DocAve 6 SP4 に更新してから同期ジョブを実行する場合、ストレージ内の関連するコネクタ リンクのファイルはフォルダー (...¥_r) に移動しません。

- コネクタでは、ファイルのチェックインおよびチェックアウト機能に対応していません。

- DocAve 6 SP3 でストレージ パスを構成し、構成したパスを削除した後 DocAve SP4 に更新する場合、削除したストレージ パスに対する資格情報は管理アカウント プロファイルに保存されます。

ストレージ マネージャー

- SharePoint のバグのため、Web アプリケーションのコンテンツ データベースの RBS プロバイダーが有効になっている場合、SharePoint 2013 から SharePoint 2016 へのデータベース アップグレードが失敗となります。アップグレード コマンドの実行前に RBS プロバイダーを無効にすると、データベースが正常にアップグレード可能になります。

- SharePoint 2016 管理シェルで、RBS プロバイダー パラメーターを使用せずに、ストレージ マネージャーが構成されているサイト コレクションのコンテンツ データベースを別のコンテンツ データベースに変更すると、外部コンテンツが開きません。これは SharePoint 2016 のバグに起因します。

- RBS プロバイダー パラメーターを使用せずに AgentToolSP2016MoveStub で、ストレージ マネージャーが構成されているサイト コレクションのコンテンツ データベースを別のコンテンツ データベースに変更すると、外部コンテンツが開きません。これは SharePoint 2016 のバグに起因します。

- スタブ トレース機能が、読み取り専用 SQL Server コンテンツ データベースに存在する SharePoint サイト コレクションでアクティブ化されている場合、[外部化の詳細] ボタンはファイル メニューに表示されません。これは、コンテンツ データベースが読み取り専用のため発生します。SharePoint 環境では、関連する権限を必要とするコントロールは非表示になります。
- STSADM で "backup" コマンドを使用し、孤立したスタブを含む SharePoint 2010 サイト コレクションをバックアップすると STSADM コマンドがフリーズし、関連する SharePoint 2010 サイト コレクションのロック状態が読み取り専用 (追加、更新、削除をブロックする状態) に変更されます。この問題は SharePoint の制限が原因で発生します (SharePoint 2013 では解消されています)。
- EBS を有効化した環境で AgentToolSP2013MoveStub.exe ファイルまたは AgentToolSP2010MoveStub.exe ファイルを実行してサイト コレクションを別のコンテンツ データベースに移動する場合、サイト コレクション内の元のスタブ (サイト コレクションの移動前に生成されたもの) と新たに生成されたスタブ (サイト コレクションの移動後にストレージ マネージャーのスケジュール ジョブで生成されたもの) へはアクセスすることができません。ただし、実コンテンツへの変換は正常に実行することが可能です。
- 長い URL を含むサイト コレクションに対して [代替ファイル アクセス] 機能をアクティブ化し、制限付きファイルをサイト コレクションにアップロードした場合、アップロードは失敗します。SharePoint 2010 では、サイト コレクションの URL は 156 文字以下である必要があります。SharePoint 2013 では、サイト コレクションの URL は 152 文字以下である必要があります。
- サイト コレクション (プラットフォーム バックアップ & リストアを使用して、リストアする前にスケジュール ストレージ マネージャー ルールが適用されたもの) を、プラットフォーム バックアップ & リストアを使用して [元の場所へリストア] を選択し、スケジュール ストレージ マネージャーでジョブの実行を選択した場合、ジョブは失敗します。

  対処法: ツリーの更新後、スケジュール ストレージ マネージャー ルールを再度適用し、ジョブを再実行します。

- **SharePoint 2013 のサイトに対し [代替ファイル アクセス] 機能を有効化します。**制限付きファ

イルまたはブロックされたファイルをライブラリへアップロード、ライブラリのファイル リンクを選択し、表示されたウィンドウ上で [保存]、[開く]、または [キャンセル] を選択した場合、ファイルをライブラリからダウンロードすることはできません。

対処法: 該当するサイトから **サイトの設定** > **サイト機能の管理** に移動し、[ダウンロード最小化戦略] 機能を非アクティブ化します。

- 代替ファイルをコネクタ ライブラリ、または代替ファイル アクセス機能が有効化されたストレージ マネージャー ノードにアップロードする際、ファイル名が 123 文字を超えるファイルのアップロードは失敗します。この問題は SharePoint の制限により発生します。**SharePoint にアップロードするファイルの名前は 128 文字以内である必要があります。**SharePoint に代替ファイルがアップロードされる際は、ファイル名の後ろに自動的に ".aspx" が追加されます。このため、代替ファイルの名前は 123 文字以内である必要があります。
- 列の追加設定で使用するコンテンツ タイプの管理では、ドキュメントへのストレージ マネージャー リンクおよびマルチメディアのコネクタ リンクや、ドキュメント コンテンツ タイプへのコネクタ リンクに対応していません。
- コンテンツ データベースのファイルストリームを有効化した後、このコンテンツ データベースの RBS を有効化します。そして、リアルタイム ストレージ マネージャー ルールを構成し、ルールを満たすファイルを SharePoint にアップロードする場合、ファイルは SharePoint 上でスタブにはなりません。この問題は SharePoint の制限により発生します。

  対処法: エージェント サービスを再起動します。
- コンテンツ データベースのファイルストリームを有効化し、ルールの設定をした場合、このルールを満たすファイルは SharePoint へのアップロード後、スタブとなります。DocAve エージェントをインストール後、ファイルストリームによって設定されたルールを満たすファイルは、ファイルストリームが有効になっているコンテンツ データベースへアップロードすることができません。この問題は RBS ロジックにより発生します。詳細については、AvePoint のナレッジ ベースに関する Solutions for FileStream Provider and DocAve 6 RBS Provider Coexistence (英語) を参照してください。
- SharePoint の **大容量ファイルのアップロード** ウィンドウをから大容量ファイル、複数のファイル、禁止されているファイルなどをアップロードする際に、**アップロードするファイルの参照** をクリックしてアップロードするファイルをすべて選択しても、ファイルは SharePoint へアップロードされません。

  対処法: 大容量ファイルのアップロード ウィンドウにアップロードしたいファイルをドラッグします。

SQL Server データ マネージャー

- SQL Server データのリストア ジョブを実行し、英語のサイトを、手動で入力された日本語のサイトにリストアします。ジョブが **実行中に例外が発生** 状態で完了しても、リストア元サイトがリストア先にリストアされず、テンプレート #0 の無効を通知するメッセージが表示されます。

  原因: この問題は SharePoint API の制限に起因します。

  対処法: リストア先環境で英語の言語パッケージをインストールします。

通知

本書に含まれる内容は AvePoint Japan が所有かつ提供し、AvePoint Japan およびライセンス所有者に帰属します。本書の内容は著作権および商標登録およびその他所有に関わる法律によって保護されます。本書に掲載する通知および著作権の情報のいかなる削除ならびに変更も禁じます。

著作権

Copyright© 2012-2017 AvePoint Japan K.K. All rights reserved.本書の著作権は AvePoint Japan 株式会社に帰属します。本書に掲載されている情報はすべて日本および国際著作権法において保護されており、内容の無断複製、更新、転載を禁じます。本書のいかなる部分、いかなる書式および電子通信、機械的送信、複写、記録などのいかなる方法、あるいは AvePoint Japan 株式会社 (〒 108-0074 東京都港区高輪 4 丁目 10-18 京急第一ビル 11 階)、ならびに本書に掲載する情報がサード パーティに所有される場合サード パーティによる事前の文書による許諾なしに複製、保存、送信を禁じます。また上記の如何に関わらず、本発行物内の AvePoint 関連の情報 (派生物及び変化物を含む) の何人による複製及び転載も禁じます。また、如何なる複製物並びに転載物も自動的に AvePoint に属するものとし、該当者または継承者、担当者、相続者、恩恵者、実行者のいずれも該当複製物並びに転載物を直ちに AvePoint へ返却し、必要書類に署名することに同意するものとします。

登録商標

AvePoint®、DocAve®、AvePoint ロゴおよび AvePoint ピラミッド ロゴは AvePoint Japan 株式会社による日本特許庁登録済みの商標です。これらの登録商標および本書に使用されている他の商標はすべて AvePoint の専有プロパティであり、文書による許諾なしには使用できません。

Microsoft、MS-DOS、Internet Explorer、Microsoft Office SharePoint Servers 2007/2010/2013、SharePoint Portal Server 2003、Windows SharePoint Services、Windows SQL server、および Windows はマイクロソフト株式会社の商標または登録商標です。

Adobe Acrobat、および Acrobat Reader は Adobe Systems、Inc の商標です。

その他本書に掲載されている商標はすべて該当の所有者のプロパティであり、許諾なしに使用することを禁じます。

変更

本書は情報の提供のみを目的とし、通知なしに変更または更新される場合があります。当社では最新、そして正確な情報を提供するよう努力しておりますが、あらゆるコンテンツの誤りもしくは脱落に起因する間接的、派生的に生じた損害に対し、一切の責任を負わないものとします。当社は、ユーザーに対し予告、通知をすることなく AvePoint ソフトウェアのグラフィック ユーザー インターフェイスを変更する権利を所有しています。

AvePoint Japan 株式会社
〒 108-0074
東京都港区高輪 4 丁目 10-18
京急第一ビル 11 階